



宗像市における公共交通とまちづくりの協調 ～持続可能な循環型都市の実現に向けて～

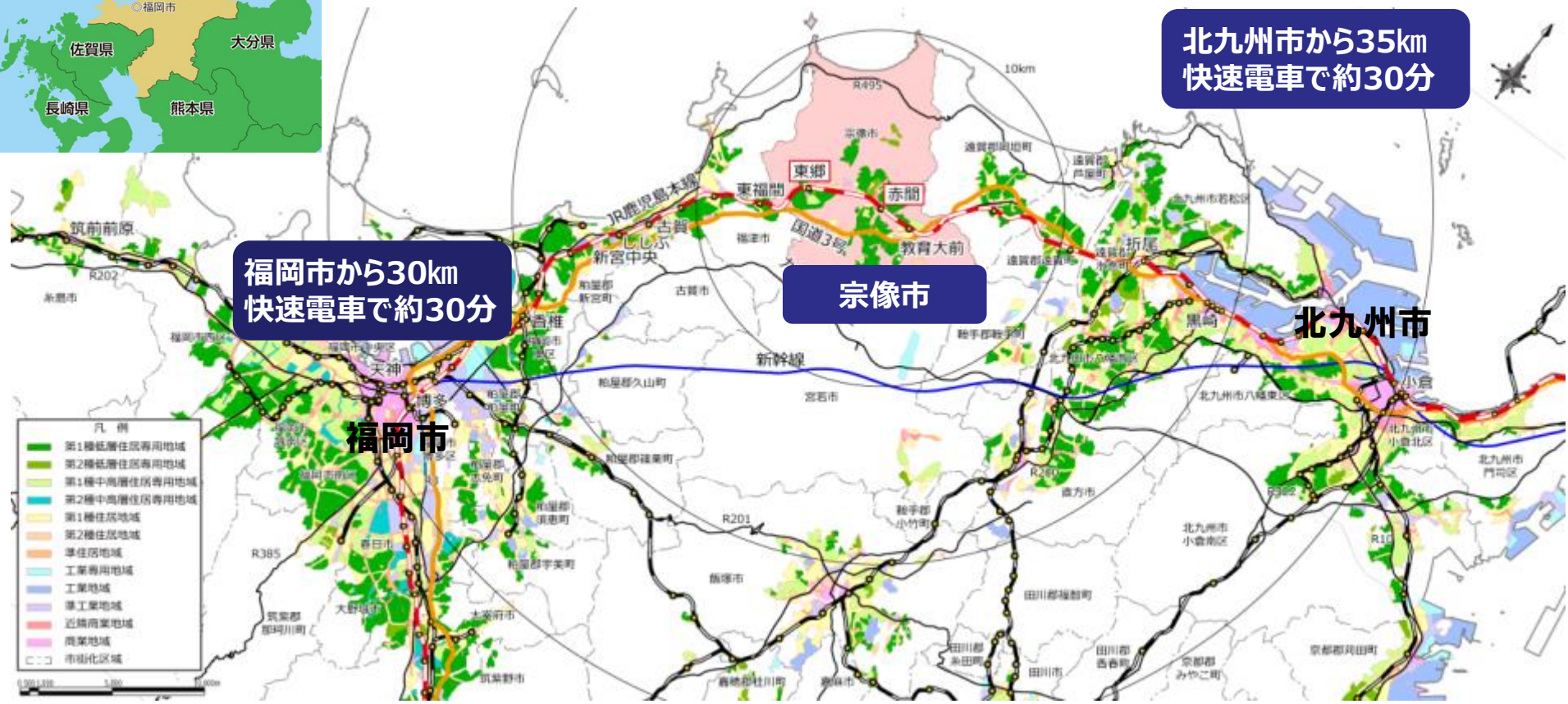
宗像市 都市再生部

都市再生課長 内田 忠治

令和6年2月14日



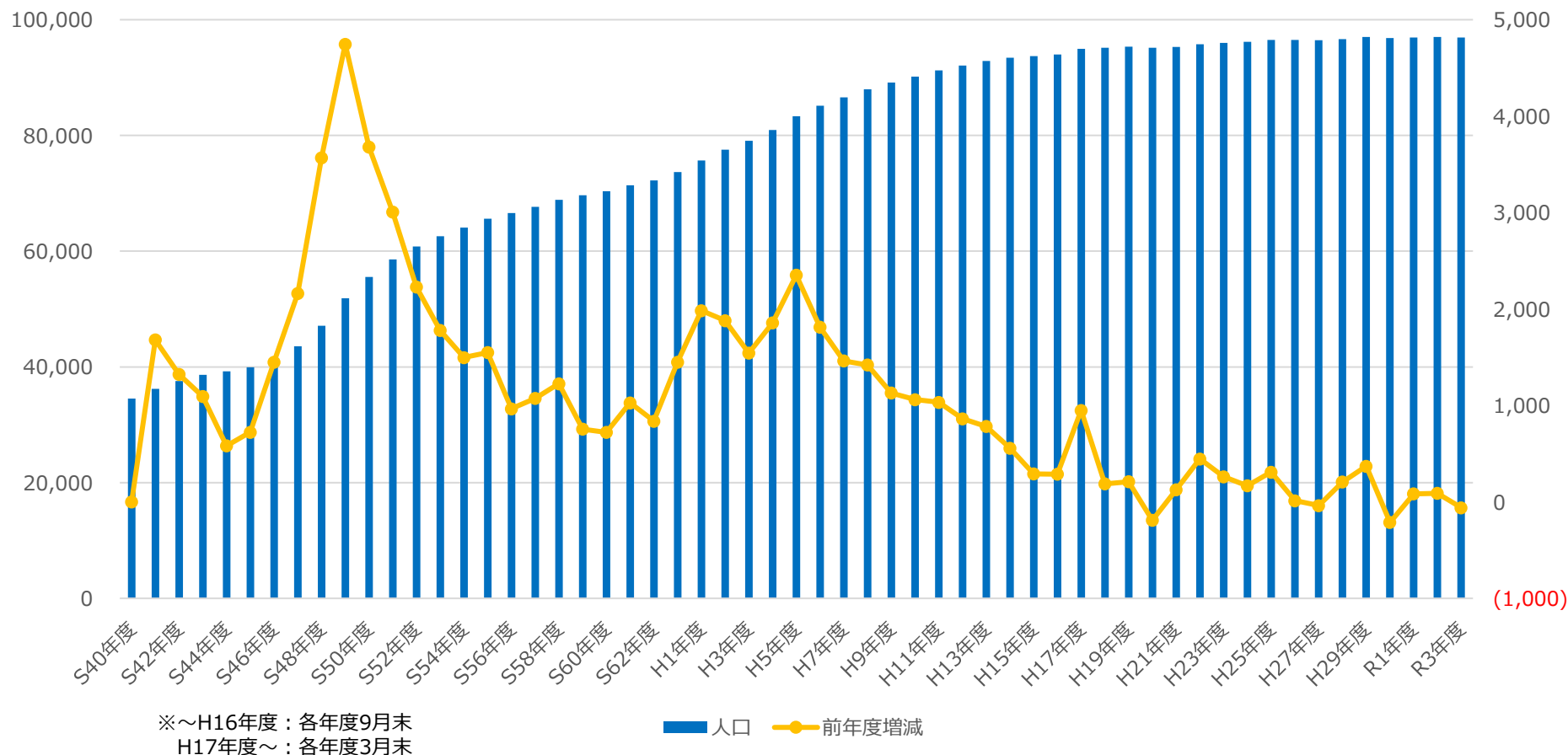
豊かな自然に囲まれた宗像市は、福岡市と北九州市から約30キロ圏内に位置し、交通アクセスに恵まれた良好な住宅都市として発展してきた。



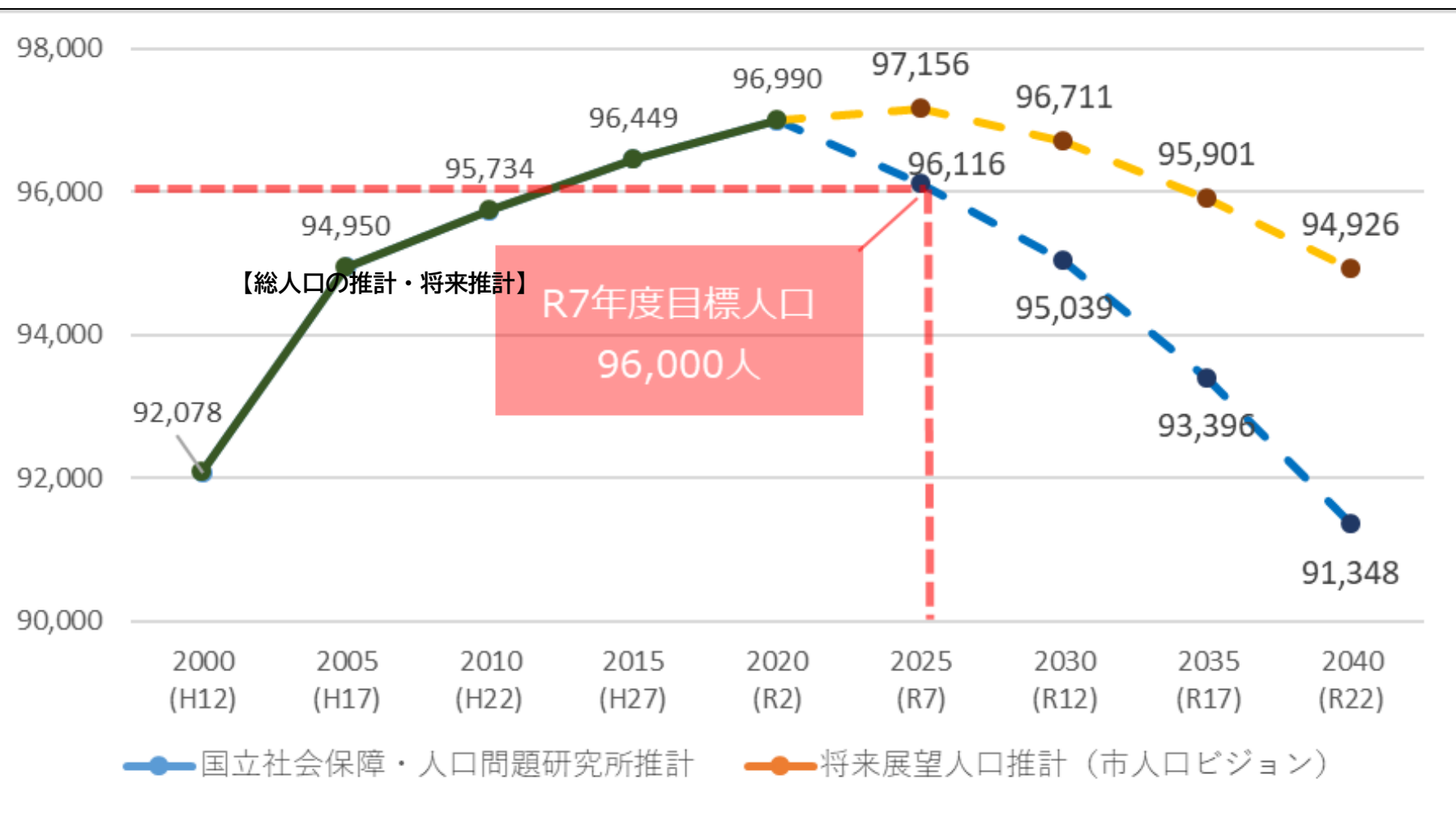
- 人口 96,954人 (令和5年3月31日現在_住民基本台帳)
- 世帯数 44,528世帯 (令和5年3月31日現在_住民基本台帳)
- 面積 119.94 km² (平成31年3月31日現在)
- 都市計画区域 10,990 ha (平成31年3月31日現在)
(市街化区域 1,876 ha、市街化調整区域9,114 ha)

- 昭和40年代の大型団地開発を背景に人口が急増し、令和4年3月31日時点では96,931人。
- 第2次宗像市総合計画において、令和7年度時点での目標人口は96,000人。

宗像市の人口の推移



- 第2次総合計画策定時のR7年度時点の目標人口96,000人は達成の見込み。
- 社人研では令和7年度、市人口ビジョンでは令和12年度には、人口減少に転じる見込み。
⇒人口減少に歯止めをかけることに加え、人口減少を見越した各施策の適正規模化が必要。



宗像版集約型都市構造の考え方

市中央を貫流する釣川沿いの農地の後背となる丘陵部を中心に住宅地開発、**市街地や主要な都市機能が分散して立地**

今後の都市構造は一極集中ではなく、**地域の特性を踏まえた多極連携の集約型都市構造を目指す**ことが適切

都市づくりの理念

自然、歴史などの環境と共生し、持続的発展が可能な都市

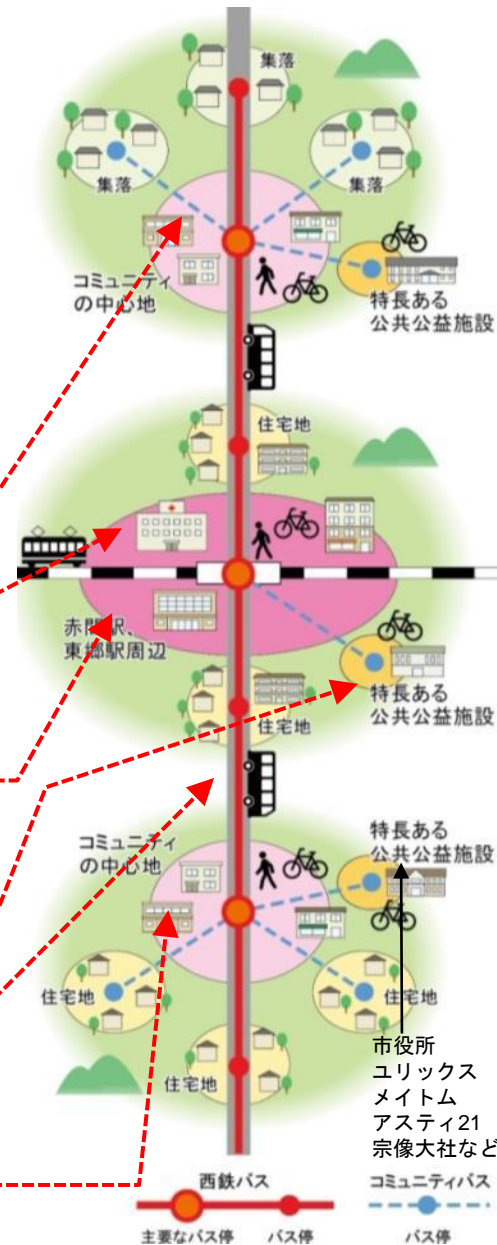
既存ストックを有効に活用し、質を高めることにより、市民誰もが暮らしやすい都市

人と人の連携を強め、地域コミュニティのある自立した都市

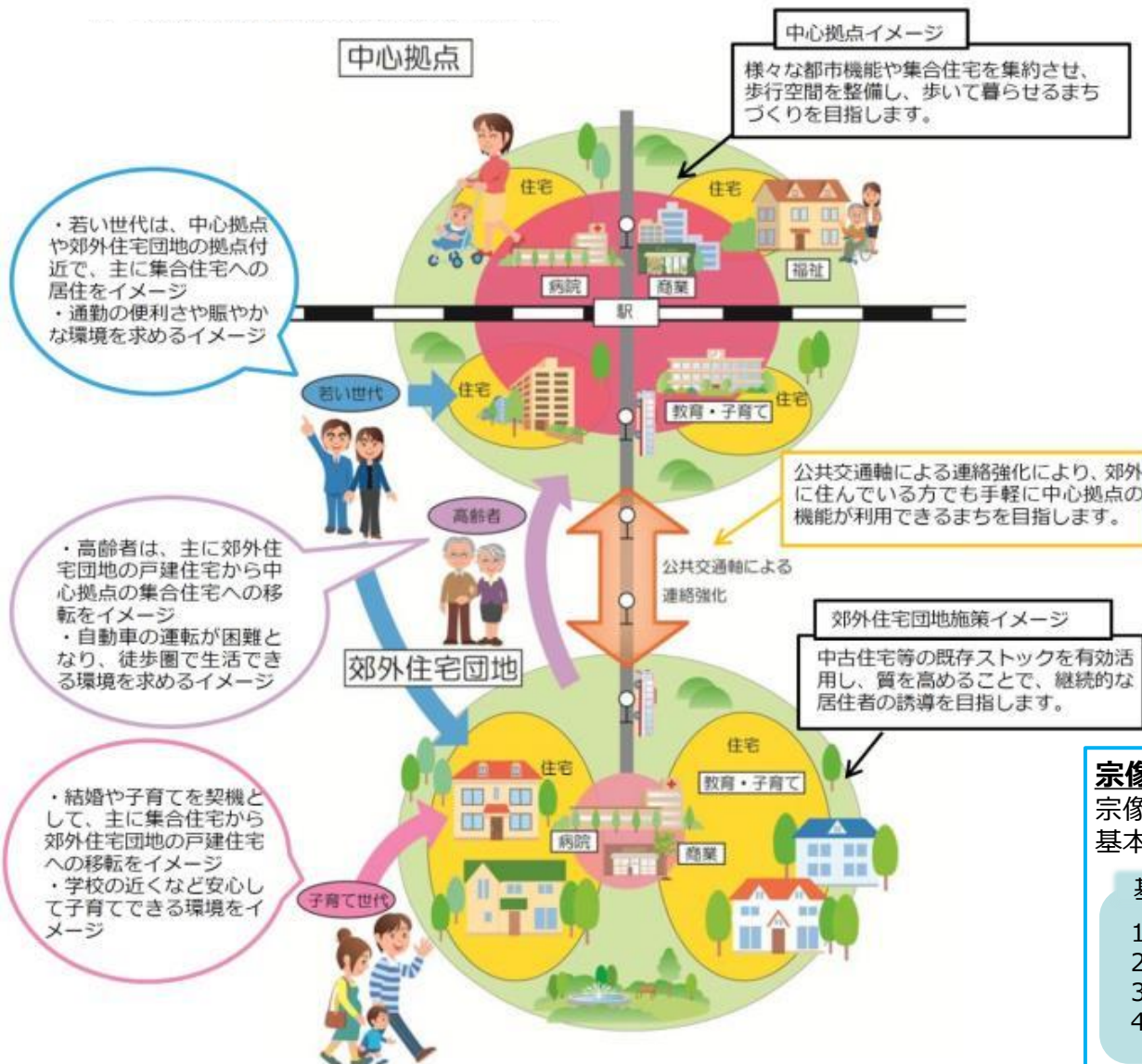
多極連携による集約型都市構造の形成の基本的な方向

- (1) 各コミュニティ内での生活利便性を維持する集約化を目指す
駅やバス停、コミュニティセンター周辺など、日常的に人が集まる場所をコミュニティの中心に位置づけ、店舗や身近な公共公益施設など、生活の利便性が確保できる機能を集約させる。
- (2) 駅周辺への都市機能の集約化を目指す
赤間駅及び東郷駅周辺に都市機能が集積する拠点的形成し、新規の都市機能が現状より分散しないようにする。
- (3) 分散する公共公益施設を地域の個性・魅力づくりに活用する
分散している特長ある公共公益施設の機能（行政、文化、福祉、学術研究など）と近接する地域中心の機能を連携させ、地域の個性づくりに活用する。
- (4) 交通ネットワークを強化し、公共交通の利便性を高める
拠点及び地域中心における機能の集約や特長ある公共公益施設との連携を通じて、交通ネットワークを明確にし、公共交通利用者を増やす。
- (5) 集約型都市構造の形成は緩やかに進める
集約型都市構造の形成は、短期集中的に行うものではなく、新たな施設の立地や既存施設の建替えの機会を活かして緩やかに進める。

図 宗像版集約型都市構造のイメージ



【目標】将来に向けて人口減少と高齢化の進展が見込まれるなか、「居住誘導区域」と「都市機能誘導区域」において、将来にわたり誰もが快適に安心して暮らせる都市環境の確保を目指す。



市街地の範囲や都市機能の立地をコントロールしながら、人口減少社会に耐え得る住みよいまちづくりの実現



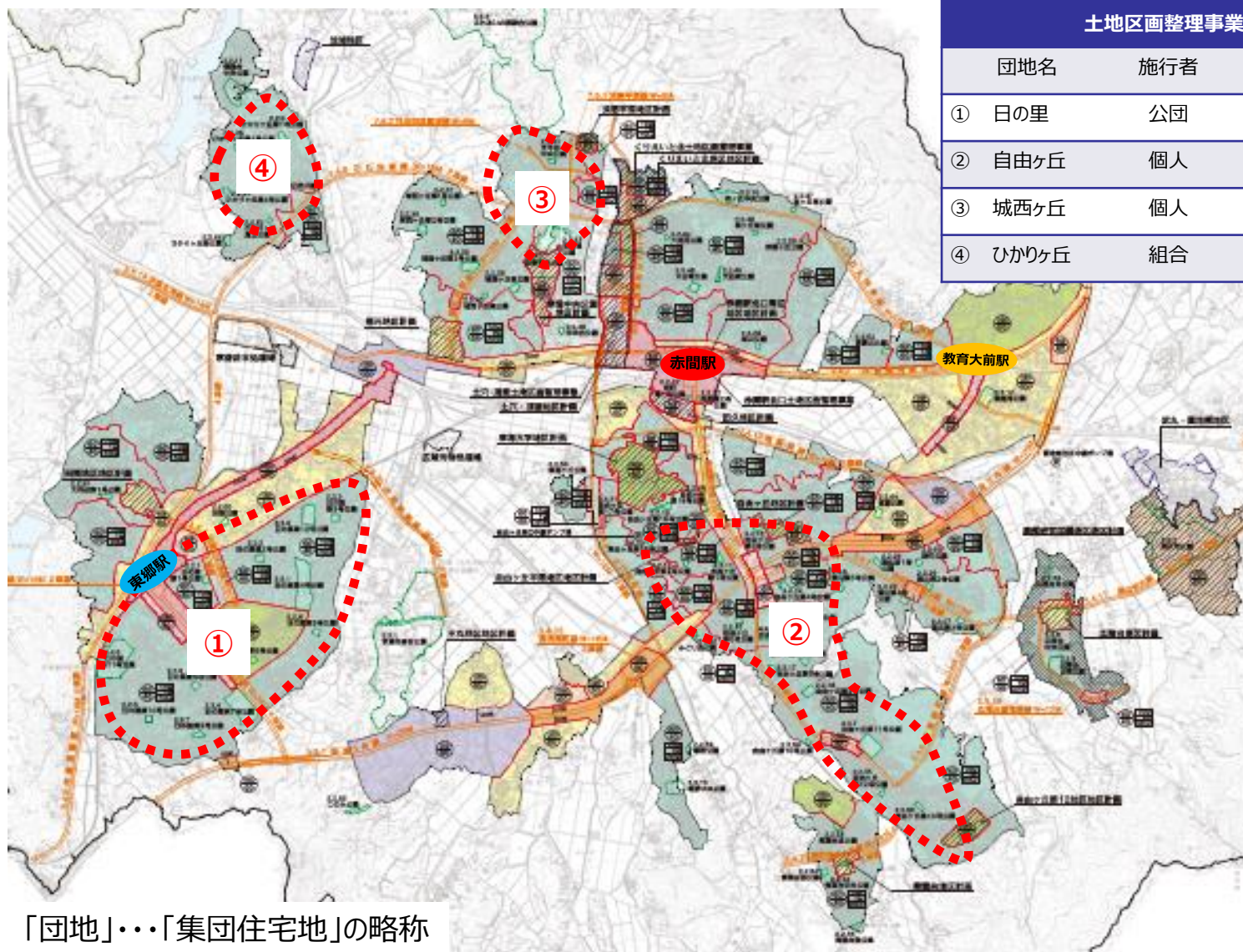
【居住誘導区域】
商業施設や医療・福祉施設などやコミュニティが持続的に確保されるように居住の密度を高めていく区域

【都市機能誘導区域】
居住誘導区域の中でも特にまち全体として必要な都市機能の維持と新規立地を促す区域

宗像市都市再生基本方針 (H26庁議決定)
宗像市版集約型都市構造の実現に向けた、都市再生の基本的な考え方を示す。

- 基本方針
- 1 公共交通ネットワークの強化
 - 2 各拠点と交通軸への都市機能誘導
 - 3 生活利便性の高い地域の再編成と居住誘導
 - 4 将来都市像の明確化と土地利用のルールづくり

明治・大正期の九州鉄道株式会社（現 J R 九州）による鉄道開通を機に赤間、東郷などの駅周辺に市街地が形成されはじめ、昭和40年（1965年）前後に国鉄（現 J R 九州）鹿児島本線の電化、宗像バイパス（現国道3号）の開通に伴い、大規模な住宅団地開発、大学の建設などが相次いで進んだ。



土地区画整理事業の主な実施状況			
団地名	施行者	事業年度	施行面積
① 日の里	公団	S41～S45	約217.6ha
② 自由ヶ丘	個人	S40～H6	約173.9ha
③ 城西ヶ丘	個人	S49～S61	約51.9ha
④ ひかりヶ丘	組合	S43～S61	約44.7ha

「団地」・・・「集団住宅地」の略称

昭和40年代に開発が始まった大規模住宅団地（日の里、自由ヶ丘等）は、**居住人口の減少、高齢化、住宅の老朽化**とともに**空き家の顕在化**が進行している。

【課題】

大規模な住宅団地の開発により人口が伸び続けてきたが、今後は人口が減少へと転換することが推測されており、人口減少に伴う住環境の悪化や地域活力の低下が懸念されている。そのため、住み替えや建て替え等の定住促進へ向けた取組みが喫緊の課題である。



＜対応方針＞

住環境の優位性を活かしたまちの質の向上 / 豊かな暮らし方を提供できる良好な住環境づくり

日の里地区：JR東郷駅があり、国道3号にも隣接していることから、**広域交通の便が良好**
 自由ヶ丘地区：JR赤間駅までの南北縦断バスや福岡市内までの高速バスの運行もあり、**公共交通軸が充実**
⇒空き地・空き家情報や住み替え情報の提供、老朽化した住宅の建て替えを促進する。

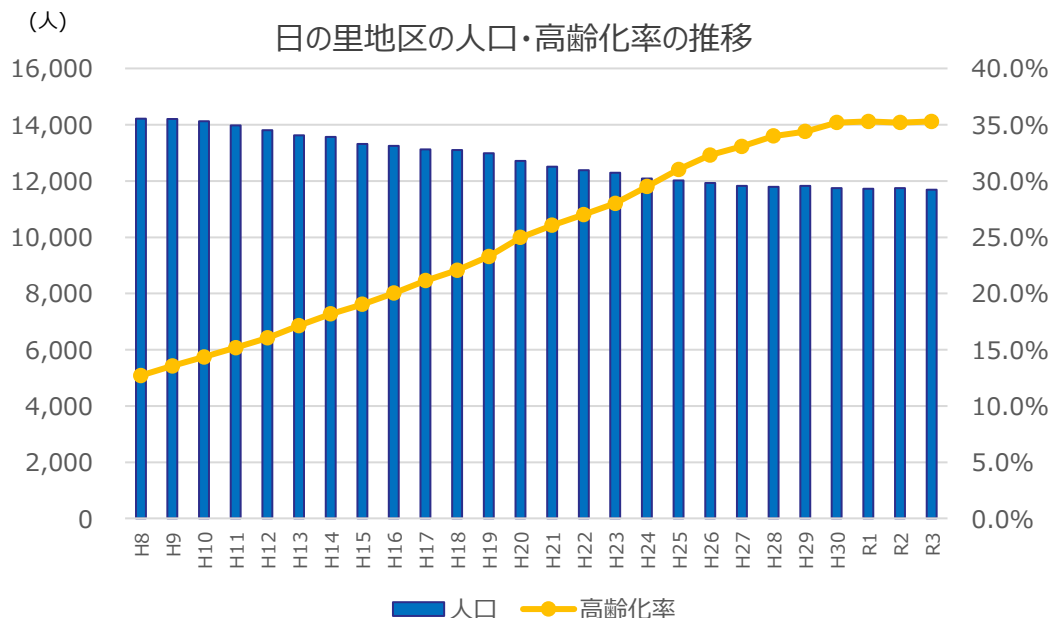
＜主な取組みの変遷＞

H25	H26	H27	H28	H29
<ul style="list-style-type: none"> ▽ 都市再生庁内プロジェクトチーム創設・団地再生等の調査研究 ▽ 宗像市都市再生戦略の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ▽ 宗像市都市再生連携協力に関する協定書締結 ▽ 日の里地区まちづくり計画特別委員会の設立 	<ul style="list-style-type: none"> ▽ 宗像市都市計画マスタープランの改定 ▽ 再生事業を推進する「都市再生事業推進協議会」設立 	<ul style="list-style-type: none"> ▽ UR日の里団地の再生による利活用検討 ▽ JR東郷駅前空き店舗活用（CoCokaraひのさと） 	<ul style="list-style-type: none"> ▽ UR日の里団地（解体予定の10棟）の利活用検討 ▽ CoCokaraひのさとの賑わい創出事業拡充
H30	R1	R2【団地再生元年】	R3	R4予定
<ul style="list-style-type: none"> ▽ 宗像市都市再生ピッチ大会&パネルディスカッションの開催 ▽ 日の里地区エリアマネジメントの構築として人材発掘ミーティングやワークショップを実施 ▽ 都市再生課の新設 	<ul style="list-style-type: none"> ▽ 福岡県宗像市日の里団地共同企業体と連携協定を締結（ひのさと48プロジェクト始動） ▽ ココカラ運営協議会の法人化に向けた支援 	<ul style="list-style-type: none"> ▽ 国道3号「新王丸橋橋台」へのウォールアートプロジェクトの実施 ▽ オンデマンドバスの実証運行開始 ▽ 生活利便施設「ひのさと48」グラウンドオープン 	<ul style="list-style-type: none"> ▽ 「さとの（は）hinosato」まちびらき ▽ 日の里地区都市再生ビジョン策定 ▽ 自由ヶ丘地区でショップモビリティやドローンの実証事業実施 	<ul style="list-style-type: none"> ▽ 空き家等を活用した面的整備手法の検討 ▽ 自由ヶ丘地区都市再生ビジョンの検討



日の里地区の概要

- ◆日の里地区は、福岡市の北東約25km、北九州市の西約35kmに位置し、地区北側はJ R鹿児島本線に接する標高30～80mの概ね北傾斜の丘陵地であった。
- ◆事業名称は「宗像都市計画事業東郷土地区画整理事業」、施行者は日本住宅公団（現都市再生機構）であり、施行面積は、2,176,723㎡、施行期間は昭和36年から45年である。計画戸数は5,100戸、計画人口は20,000人である。
- ◆土地利用計画は、地区中央を南北に縦貫する都市計画街路2・1・6号線（W=20～25m）を境として東西に二つの近隣住区を構成し、それぞれに小学校及びサブショッピングを設けた。また、開発ベースとなる集合住宅を地区中央部に配置し、東郷駅周辺に行政・商業施設等を配して、地域発展の核とするよう計画した。公園としては、丘陵・ため池等を有効に利用した近隣公園、遺跡を取り入れた古墳公園を設けたほか、誘致距離を考慮して、児童公園（街区公園）を適宜配置した。
- ◆地区内は、郵便局、小学校が2校、中学校が1校ある。
- ◆地区北部にはJ R鹿児島本線が通過して、J R東郷駅が位置している。また、福岡市と北九州市を結ぶ宗像市の広域軸である一般国道3号にも隣接し、広域交通の便に恵まれている。
- ◆同時期に同世代が入居し、半世紀近くが経過した現在、高齢化や空き家化の急速な進行が危惧されている。また、団地内には一部の棟を除き、エレベーターがない。



R3年度末	世帯数	人口	高齢化率
市全体	44,078	96,931	30.1%
日の里地区計	5,565	11,688	35.3%
日の里1丁目	466	1,030	25.5%
日の里2丁目	480	1,066	34.1%
日の里3丁目	379	843	35.1%
日の里4丁目	368	848	33.1%
日の里5丁目	471	1,003	38.2%
日の里6丁目	482	1,109	33.0%
日の里7丁目	544	1,255	36.4%
日の里8丁目	457	1,078	32.8%
日の里9丁目	578	1,279	39.2%
日の里公団1区	932	1,464	38.7%
日の里公団2区	193	393	32.1%
日の里公団3区	215	320	53.4%

UR日の里一丁目団地集約事業



UR日の里一丁目団地103、104号棟の解体に伴う跡地活用について検討中。
跡地の活用が地区の再生にとって、シンボリックな事業となることから、住民とともに活用案を検討する予定。

日の里東部生活拠点（旧UR東街区）

○令和3年5月、生活利便施設「ひのさと48」オープン

URの集合住宅をリノベーションし、多くの人が集い、会話をとおした新たなコミュニティが生まれる場所として、活用が行われている。



(外観)

AI活用型オンデマンドバス「のる〜と」

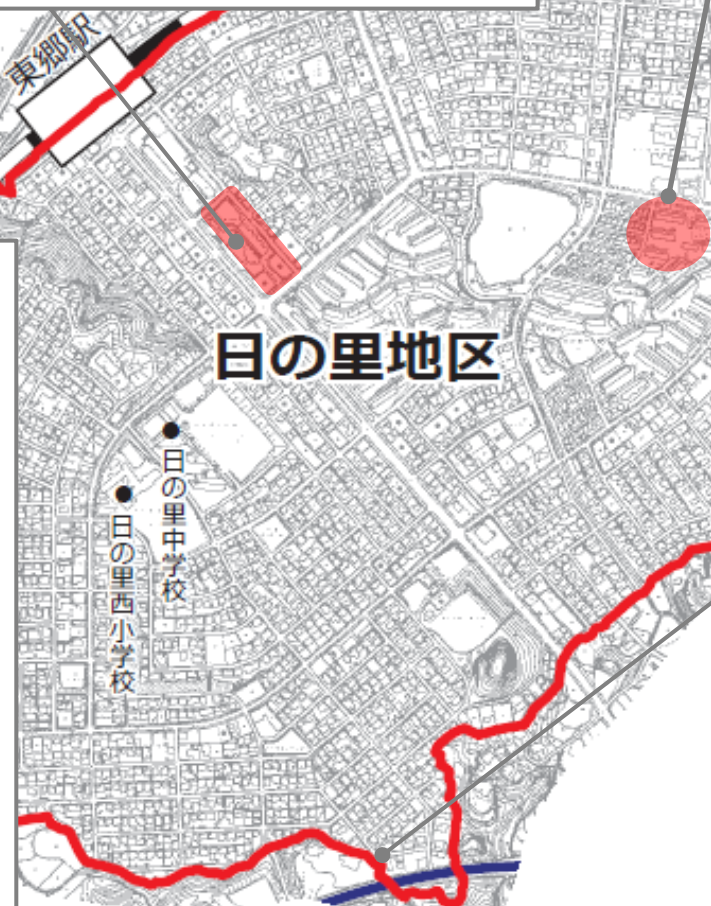
令和3年3月から実証事業開始。

日の里地区内（運行エリア内）にミーティングポイント（乗降場）を65ヶ所設け、自宅から徒歩で公共交通へアクセスすることが可能。

バスとタクシーを融合したような利便性があり、新たな公共交通として、住民の利用も増えている。



日の里地区



○令和3年秋頃～、戸建てエリアモデル街区着工



エリア中央に大きな「サトヤマ」を配し、近所との垣根のない、ゆとりある暮らしができる場所。
令和3年秋から、モデル街区の着工が始まり、令和4年春頃から、順次、入居が始まる予定。



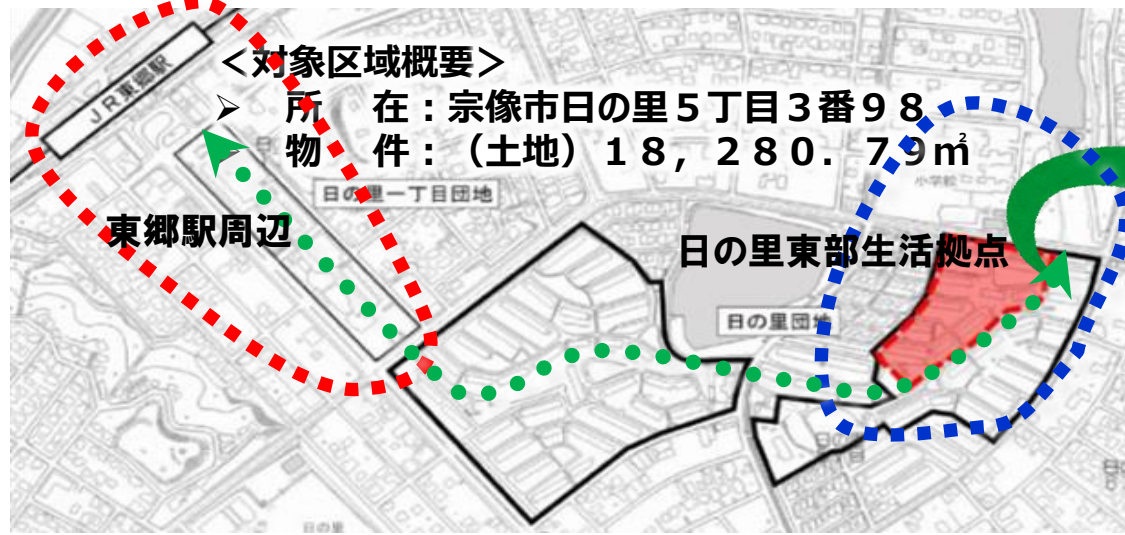
多様な主体が交わり、新たな「さとづくり」の推進力に！



令和2年3月26日
福岡県宗像市日の里団地共同企業体と
日の里地区まちづくりに関する連携協定締結

- 住友林業(株) ○セキスイハイム九州(株)
- ミサワホーム九州(株) ○大和ハウス工業(株)
- パナソニックホームズ(株) ○積水ハウス(株)
- トヨタホーム九州(株) ○東宝ホーム(株)
- 西部ガス(株) ○東邦レオ(株)
- (共同企業体 計10者)

- 一般財団法人住宅生産振興財団
- 独立行政法人都市再生機構九州支社
- 宗像市
- (市も含み計13者)



hybrid

次世代に引き継ぐレガシー

住棟を活用した生活利便施設



新しい価値の創造

先駆的な戸建て住宅

「ひのさと48」が地域の会話量を増やす拠点となり、新たなコミュニティを創出



さとづくりは、日の里づくりでも、ふるさとづくりでもあります。
48号棟が生み出す新たな文化、クリエイティビティと人にフォーカスしたプロジェクト
それが「さとづくり48」プロジェクトです。



都市再生機構が平成30年度までの再生・再編の方向性を定める「UR賃貸住宅ストック再生・再編方針」

(H19.12.26) を策定し、令和15年度までのUR賃貸住宅ストックの多様な活用の方向性を定める「UR賃貸住宅ストック活用・再生ビジョン」において、日の里団地はストック再生による集約事業を行う。跡地の活用については、日の里地区の住民と意見交換を実施し、とりまとめた意見と市のまちづくり構想をURへ提案して、公募条件に反映。事業者はURから引き継いだ6棟のうち5棟を解体し、1棟を生活利便施設にコンバージョンした。



1. 概要

さとづくりは、日の里づくりでも、ふるさとづくりでもある。住宅地の再生を不動産的価値から暮らしの価値向上によって実現するため、宗像市、UR、民間企業、地域住民の官民が一体となって進めているプロジェクト。「サステナブルコミュニティ」をコンセプトに、6つのテーマを掲げ、地域課題解決型事業の創出を目指す。具体的には、団地一棟をリノベーションして地域交流の拠点を設立し、ブリューリー事業やDIY工房、コミュニティカフェをベースに文化づくりから日の里らしさを活かした活動を始めている。

2. コンセプト

サステナブル

コミュニティ

Sustainable community

「サステナブルコミュニティ」とは、コミュニティを単純な人の繋がりにとらえるのではなく、コミュニティが半永久的に継続可能な環境（社会システム）づくりを実現すること。

過去から現在へとこれまで50年間続いてきた日の里のコミュニティを次の50年間に向けてデザインしようというコンセプト。これからの社会のあり方を常に考え、多様なものを受け入れる新たなチャレンジを起こす場として捉えている。そんな進化していくコミュニティを実現していく場づくりが、日の里団地にある。それらを実現するため、6つのテーマを掲げ、この拠点からまち全体に広げることを目指している。



・Culture(文化・日の里らしさ)

- ー生活文化・コミュニティの理解と継承
- ー既存住民と新住民や世代の壁を越える取組み

・Work(仕事・職)

- ー郊外住宅街を職住遊一体の楽しい街へ
- ーCo-creation等企業を誘致する仕組みづくり

・Education(地域ならではの教育)

- ー日の里の環境だからこその教育の場づくり
- ー子ども店員のようなリアルな職業体験の場づくり

・Mobility(移動手段)

- ー自動運転・シェア自転車等の新たな交通手段開発
- ー自動車との上手な付き合いができる空間づくり

・Food&Energy(地産地消)

- ー職づくりに繋がる地元農家育成による地産地消
- ー孤食や食べるを通じたコミュニティづくり
- ー水素・太陽光等の環境&地産地消エネルギー開発

・Relocation(家・住み替え)

- ー団地・戸建を含めた住替え促進の仕組み
- ー不動産・資産価値を高めていくような取組み



生活利便施設「ひのさと48」では、C0-doingスペース、DIY工房、団地ブリュワリー、コミュニティカフェ、シェアキッチン等地域に開かれたコミュニティスペースを展開し、さとづくり48プロジェクトのコンセプトに共感していただいたウクレレ制作工房「四弦舎」、認定保育園「ひかり幼稚園」、写真スタジオ「Jubileephotos」、児童発達支援「げんきっこらぶるーつ」、有機野菜栽培「オーガニックパパ」、ドーナツ工房「もぐもぐポケット」等の事業者と一緒にまちづくりにチャレンジしている。中央の緑地（サトヤマ）を囲む戸建住宅エリアでは、「さとののはhinosato」（64戸）が誕生し、令和5年6月現在、52戸の契約が完了している。



団地クライミング

～中学生のアイデアを大人が本気で実現～

【現状・課題】

➢ 高齢化が進み元気がなくなっている日の里団地に若者が集まる場所をつくりたい

団地には壁がたくさんあるから、クライミングウォールをつくって盛り上げたい！

アイデア実現のためにクラファンを実施！
約1ヶ月半で2,752,000円の
応援が集まりました。

アイデアを実現するためにはお金が必要です。今回は、特定の企業や団体だけの出資に頼るのではなく、より多くの、多様な人たちの気持ちで実現できればと、地域特化型クラウドファンディングにて応援を募りました。宗像市内や日の里地区にお住まいの方だけでなく、過去に日の里団地に住んでいたという方からも多くの応援の声やご支援を賜り、約1ヶ月半の実施で311組の方から総額2,752,000円の応援が集まり実現に至りました。



都市が抱える課題

- ・公園緑地の利活用策について検討が必要
- ・空き地、無蓋駐車場等の低未利用土地の常態化

- ・徒歩利便性の更なる充実
- ・住宅ストックの有効活用が必要

まちづくりの方針
(ターゲット)

民間事業者との連携による公共空間や住宅ストック等の活用

公共空間の活用

- 公園や公共空地等の公共空間の更なる有効活用の検討
- 民間事業者誘致による住民の利便性向上につながる事業の展開



事業イメージ (埼玉・みさと団地)

低未利用土地の面的整備

駅まち空間の有効な活用

- 空き地、無蓋駐車場等の低未利用状態にある地区の再生手法の検討
- 民間事業者等との検討会による手法の決定。
- 駅前の魅力向上をはかり、コンパクトなまちづくりを目指す。



住宅のリノベーション

- 民間事業者と連携して、賃貸住宅の空き部屋や空き家のリノベーションを行うもの
- 現在の住宅ニーズに対応できるよう、民間事業者と連携し、住宅ストックの利活用を促す。

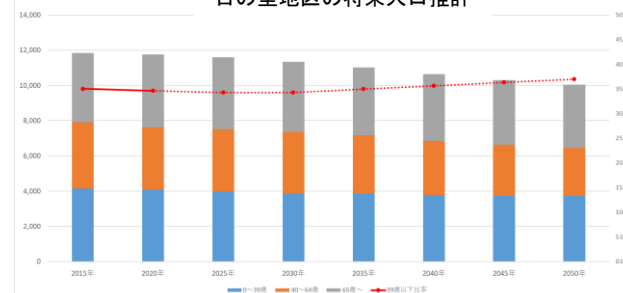


課題解決のための必要な施策・誘導方針

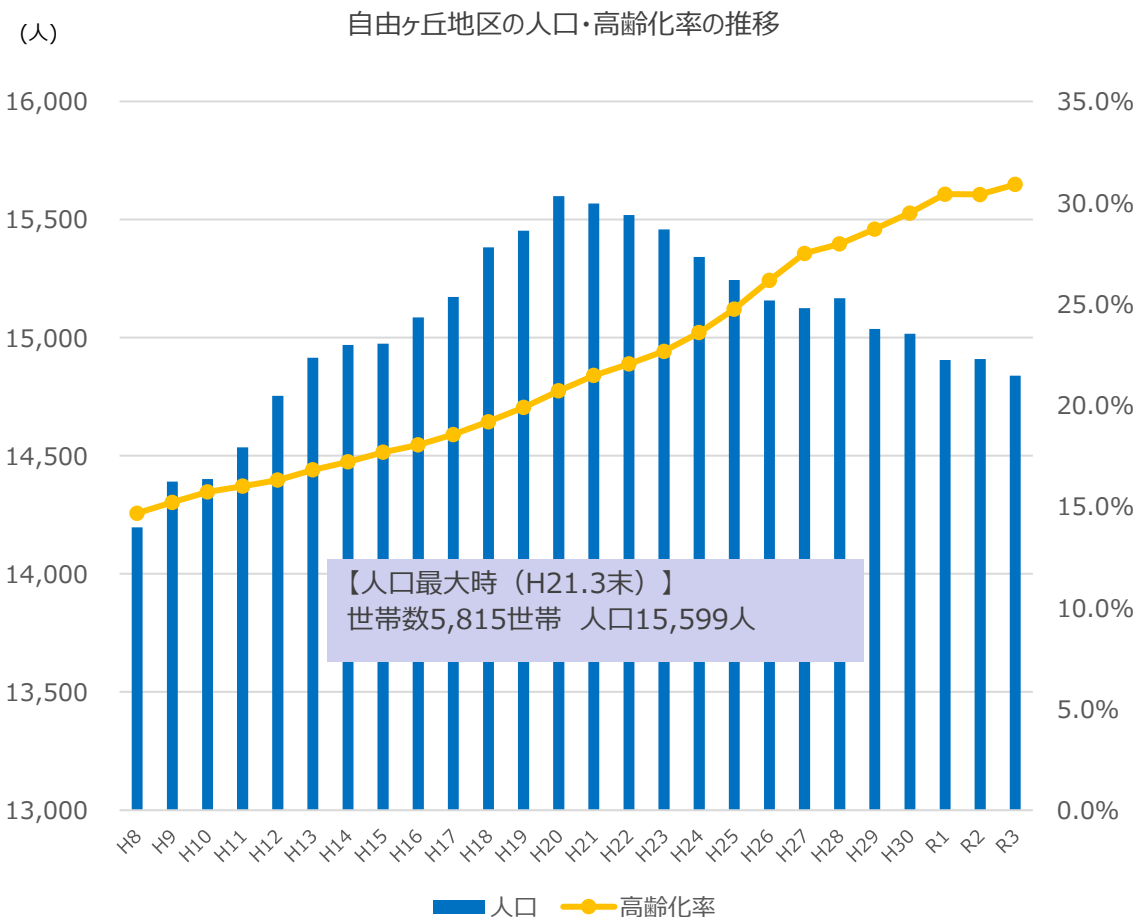
KPIの設定

評価指標	日の里地区全人口に対する39歳以下の割合
設定根拠	日の里地区は39歳以下の比率を維持しているため
現状値	34.6% [2020年度]
目標値	2020年の現状値を上回ることを目標にします。 2025年：34.8%、2030年：35.0%
算出方法	住民基本台帳人口(外国人住民を含む)

日の里地区の将来人口推計



- ◆ 事業名称は「宗像都市計画事業宗像森林都市土地区画整理事業」施行面積は約248.7ha、施行期間は昭和39年から平成に至るまで段階的に開発された、戸建てを中心とした住宅団地である。
- ◆ 開発の都度、区域内に一斉に入居が進み、現在まで建て替えや世代交代が進まないことから高齢化率が極端に高くなっている。
- ◆ 高齢化率では、宗像市全体は30.9%であるが、開発が早かった10丁目や南1丁目では50.0%を超えている。
- ◆ 本地区の主な公共交通は地区を南北に通る民間バスである。昭和55年にJR赤間駅への快速バスが運行開始し、昭和63年には国道3号宗像バイパスが供用しており、南北軸及び東西方面へのバス交通は充実している。



R3年度末	世帯数	人口	高齢化率
市全体	44,078	96,931	30.1%
自由ヶ丘地区計	6,370	14,839	30.9%
自由ヶ丘1丁目	199	482	32.6%
自由ヶ丘2丁目	598	1,249	21.9%
自由ヶ丘3丁目	279	613	33.4%
自由ヶ丘4丁目	254	569	40.6%
自由ヶ丘5丁目	297	684	37.1%
自由ヶ丘6丁目	373	1,037	17.6%
自由ヶ丘7丁目	534	1,227	31.3%
自由ヶ丘8丁目	327	759	31.2%
自由ヶ丘9丁目	225	521	34.7%
自由ヶ丘10丁目	411	869	50.4%
自由ヶ丘11丁目	370	767	44.9%
自由ヶ丘西町	409	713	30.4%
自由ヶ丘南1丁目	351	745	52.9%
自由ヶ丘南2丁目	226	495	47.7%
自由ヶ丘南3丁目	432	1005	41.9%
自由ヶ丘南4丁目	333	1175	2.0%
青葉台1丁目	414	909	17.4%
青葉台2丁目	338	1020	25.7%



【中心拠点の強化】

- ・都市機能の集約
- ・施設誘導のための制限緩和
- ・まちなか居住の推進

【幹線道路・沿道の活性化】

- ・魅力ある商業・居住機能の充実
- ・地域ニーズに対応する施設や中高層住宅の誘導

【交通軸と地域中心】 公共交通軸の強化 (バスターミナル構想)

交通結節点

(公共性+利便性+居場所・賑わいづくり)

上層階



レジデンス

低層階



賑わい・くつろぎ

1階



モビリティハブ

【想定区域】

- ・自由ヶ丘三丁目周辺

【結節点機能】

- ・単なる移動手段をつなぐだけでなく、人、モビリティ、サービスをつなぐ地域住民・来街者のコミュニティースペース
- ・EV充電をフックに集客
(充電時間の有効活用、賑わい、消費行動促進)
- ・建物は緑化・太陽光発電など

主な機能（構想）

- ・中・上層階 (5~12階)
レジデンス、ホテル
(屋上緑化、太陽光発電)
- ・低層階 (2~4階)
商業施設 (集まる場、カフェ+本屋、飲食店、スーパーなど)
健康福祉施設 (フィットネス・ヨガ・福祉など)
リモートワーク施設 (企業誘致、地域新電力会社など)
- ・空中庭園 (ヨガ・憩い・イベント・ドックランなど)
- ・1階
モビリティハブ (バス、BRT、のるーと、コミュニティバス・ふれあいバス、パークアンドライド、EVシェアリングカー、電動シェアサイクル、充電ステーションなど) 宅配ロッカー など

【既存住宅団地】

1. 住み替えの促進
2. 需要に応じた画地の再編
3. 住環境の質の向上
4. 民間事業による住宅再生

■ 都市再生基本方針

行政のみならず、民間活力による子育て・高齢者支援、サービスの推進。
まちづくりには民間活力が必要になる。

■ 自由ヶ丘まちづくり計画

交通対策の検討、買い物弱者対策、高齢化への対応、世代間交流の推進地域の設備を利用した集いの場の充実、空き家対策、中央公園の整備検討。



1. ショップモビリティ実証事業

withコロナや地区住民の高齢化を見据え、これまでのサービスを受けるために店舗へ出向く生活スタイルから、「個人の要望に合わせたサービスが移動する」という新たな生活様式の可能性について実証を行う。



2. 自動運転による交通実証事業

自宅と公共交通をつなぐワンマイル対策として、自動運転技術等の活用可能性について実証を行う。



3. 地域拠点整備の構想

交通結節点でもある自由ヶ丘3丁目交差点付近の拠点整備に関する構想について、住民とのワークショップ等の実施により検討を行う。

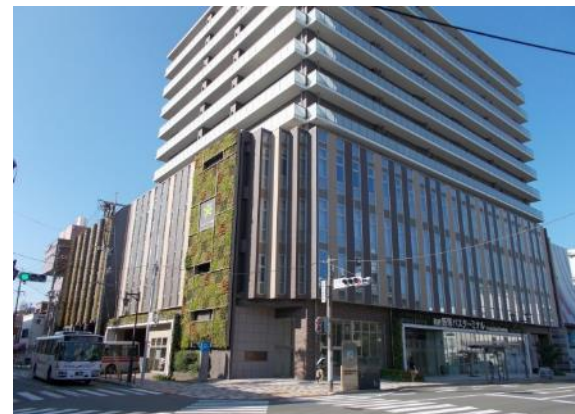
交通利便性のさらなる向上

福岡市中心部へアクセスする西鉄バスの利便性をさらに高めるため、新たにバスターミナルの整備を検討。

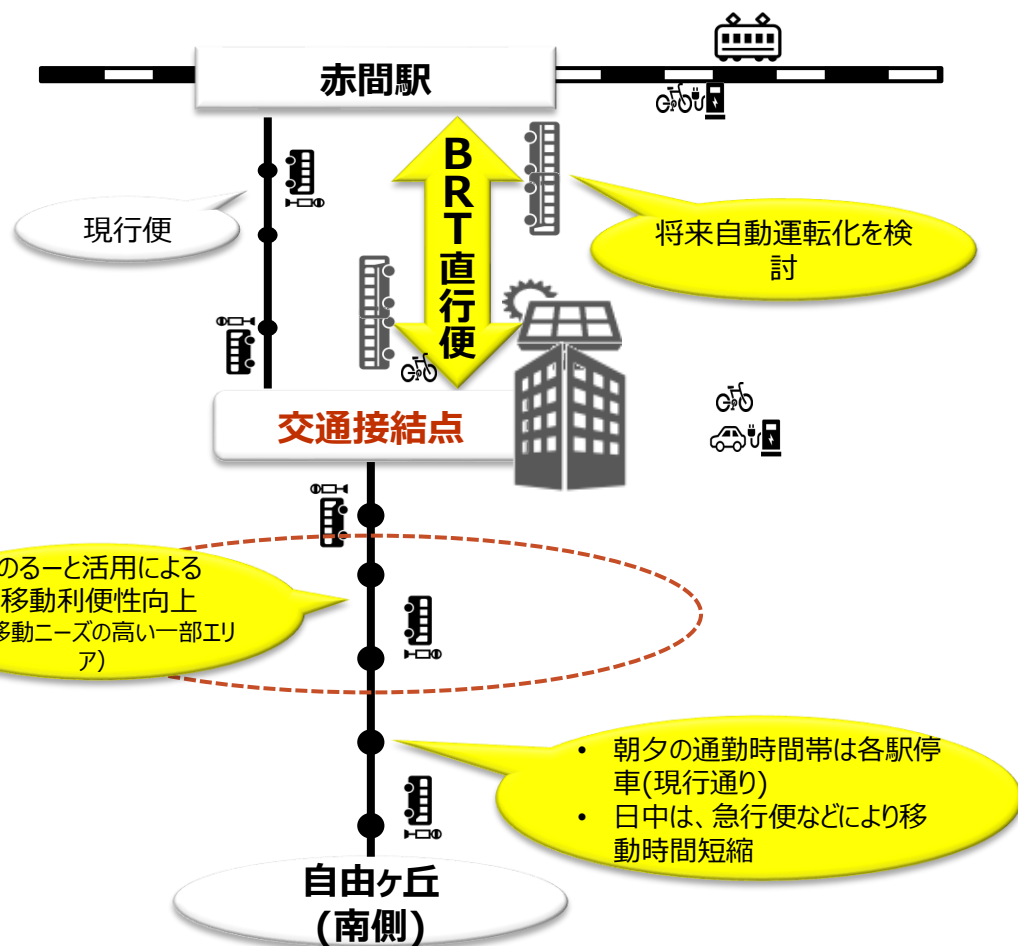
既存交通の維持・高度利用

交通弱者に配慮した既存交通の維持。持続可能な地域公共交通網のあり方の検討。

(都市再生基本方針)



- 赤間駅と交通結節点間に、BRT（Bus Rapid Transit：バスラピッドトランジット）の導入により路線バス網の維持・輸送の効率化を図る（脱炭素視点含む）
- 「のるーと」の活用で、路線バス停留所・結節点までの移動利便性を向上



【BRT】

- 走行空間、車両、運行管理等に様々な工夫を施すことにより、速達性、定時性、輸送力について、従来のバスよりも高度な性能を発揮し、他の交通機関との接続性を高めるなど利用者に高い利便性を提供する次世代のバスシステム（国土交通省）
- 将来は自動運転化も視野に入れることも可能
- 国道3号以北の路線バスは現行どおり

交通結節点から南側

- 朝夕の通勤時間帯は各駅停車（現行通り）
- 日中
 - ・北側：移動ニーズが高いエリアにおいては、のるーとの活用により、交通結節点までの移動利便性を向上
 - ・南側：急行便などによる移動時間短縮

宇沢・知る 2021.11.26
 宗像市内の住宅街にキッチンカー Mellowと宗像市が実証実験



近隣公園でのショップモビリティ実証事業



報告

ドローン実証事業 ～未来技術を活用した商品配送～

自由ヶ丘地区での都市再生事業の一環として、3月6日、未来技術(ドローン)を活用した配送実証事業を行いました。この事業は、「サービスが人の近くに移動する」という概念の実証を行うため、昨年実施した「ショップモビリティ実証事業」をさらに深化させた、未来技術の活用で「サービスが直接人のもとに届く」ことについて検証を行いました。

商品を積み込み、朝町を離れたドローンは、約1km離れた自由ヶ丘中学校まで飛行し、無事に配送をすることができました。今後も誰もが住みやすい持続可能なまちづくりを目指し、都市再生の推進に取り組みます。

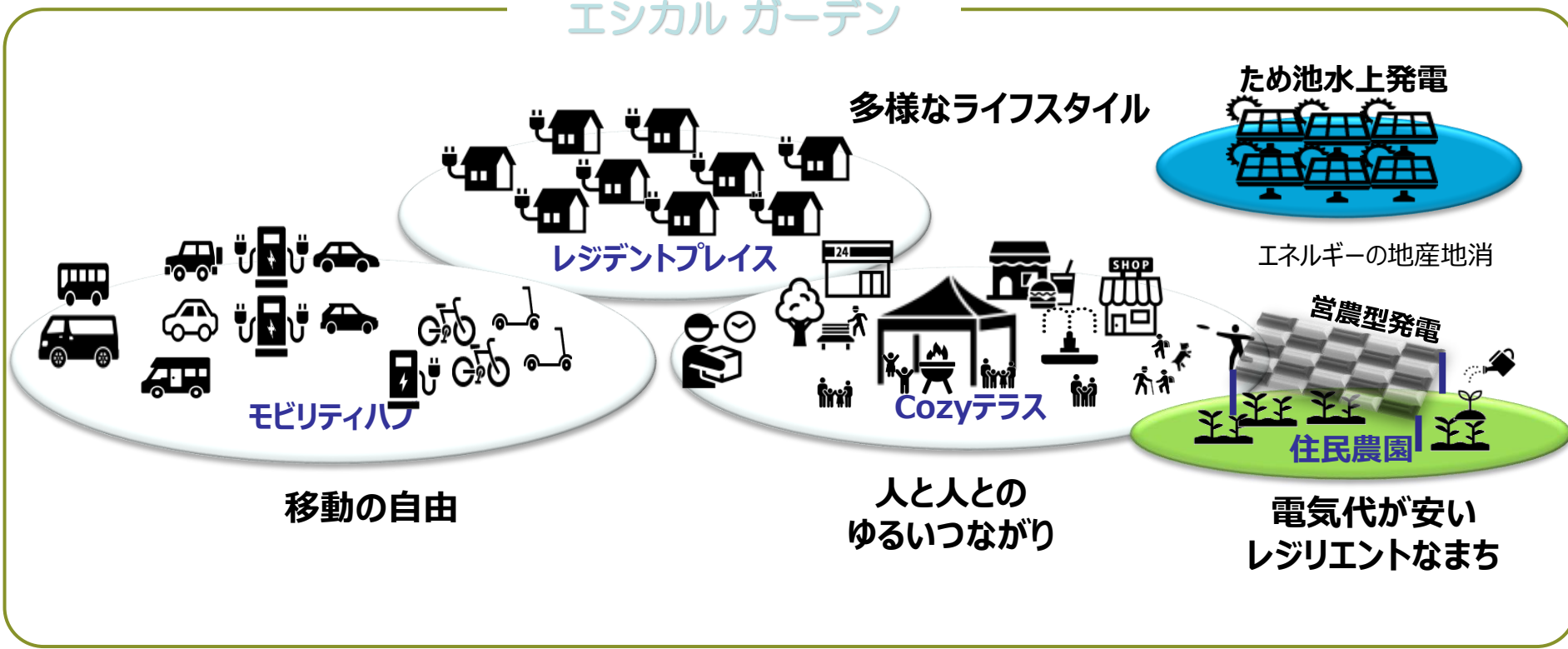
☎ 都市再生課 ☎ (36)9777



ドローンによる食料品配送実証事業

エシカルなまち・・・建物や再エネ設備などのハード整備だけでなく、まちで暮らす人々の生活や働き方や、商品やサービスをどう選択するかなど、ひとりひとりの意識や行動をはじめとしたソフト面との両輪により、無理なく楽しく、「環境」「人・社会」「地域」を守り続けていくまち

エシカル ガーデン



～ 自然と向き合える場所 ～

まちは、健康・遊び・癒しの空間であるだけでなく、外とつながる場（モビリティハブ）としても活用します
さらに、予期せぬ事故や災害の際に、自分たちを守れる場としても機能するよう考えられています

基本理念

“定住都市むなかた”を支える共創型交通網

地域公共交通のあるべき姿

1. 市民の生き活きとした生活を支える地域公共交通

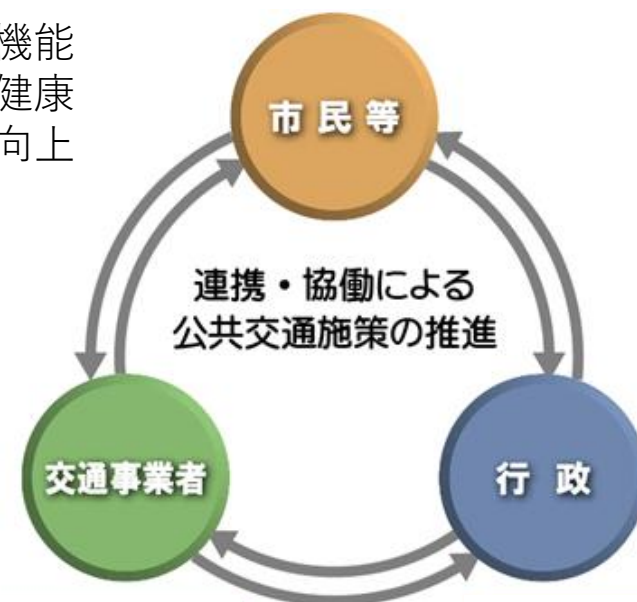
移動ニーズの変化やデジタル技術の進展による移動サービスの多様化を踏まえ、**交通事業者と連携**し、日常生活を支える安全で快適な移動環境を目指します。

2. 賑わいを創出しまちの魅力を高める地域公共交通

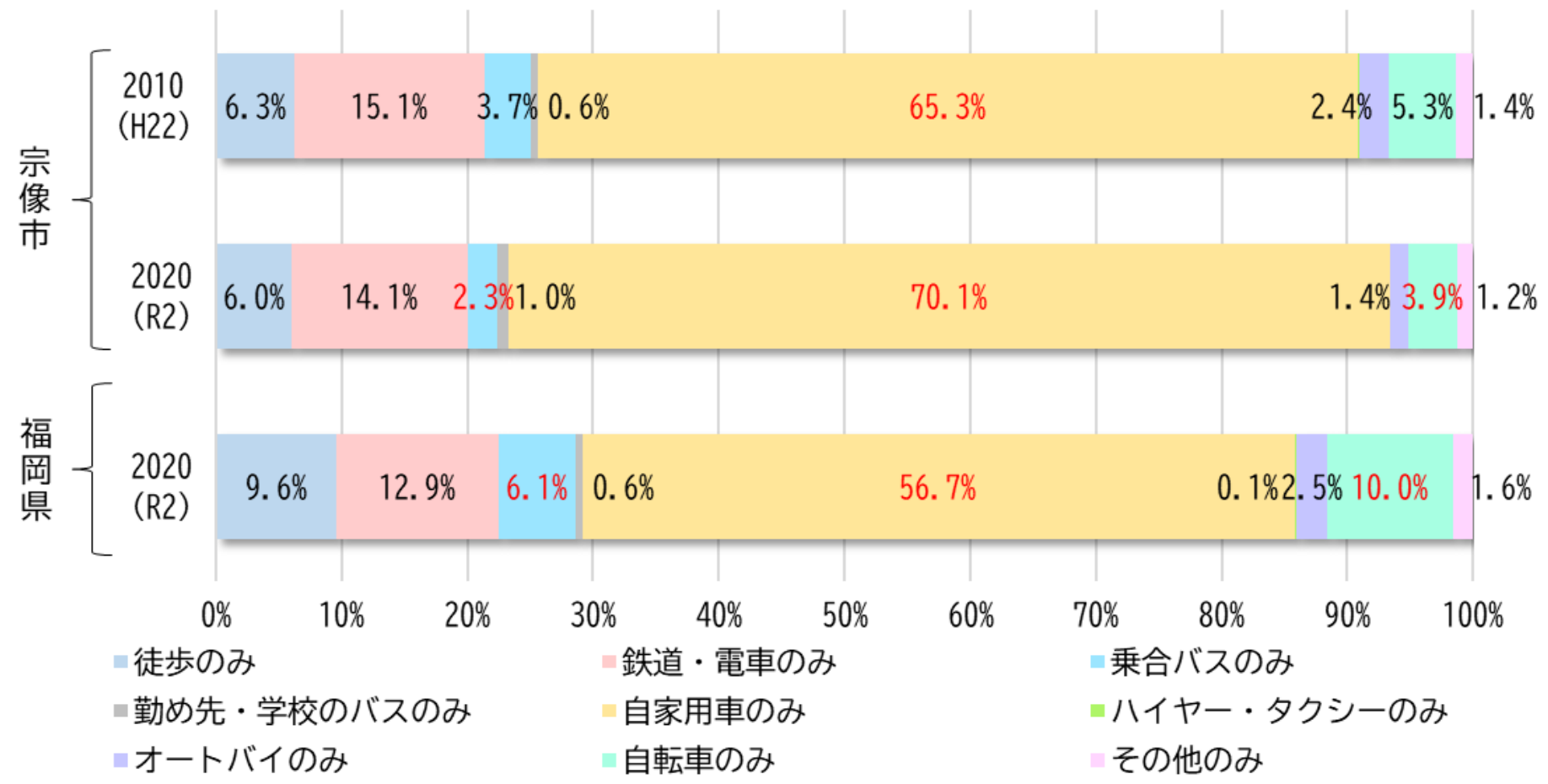
広域交通の維持、円滑な乗り継ぎを可能にする交通結節機能の強化や**他分野との連携**により、公共交通が都市再生や健康増進、地域活性化などに寄与し、定住都市としての魅力向上を目指します。

3. 持続可能な地域公共交通

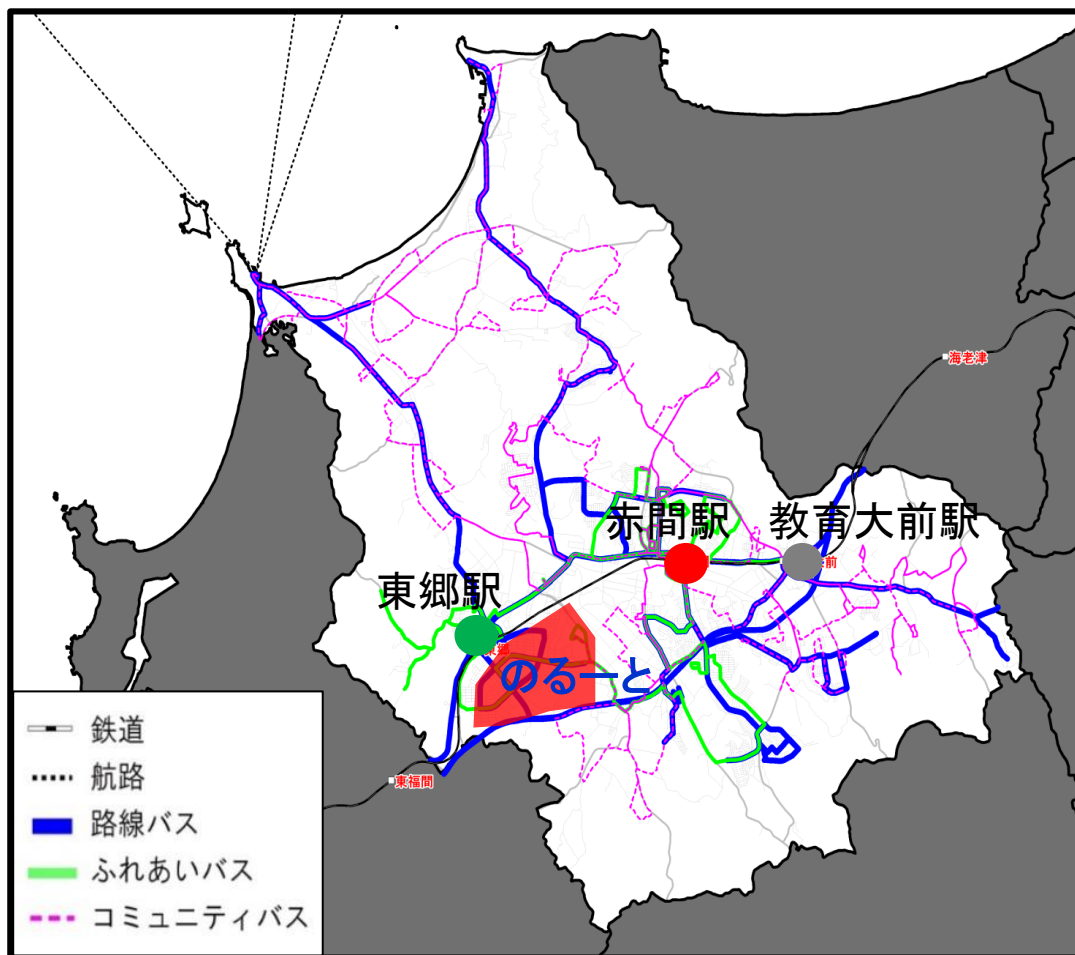
E V化をはじめとした脱炭素に資するモビリティへの転換や**市民の地域公共交通利用への行動変容の促進**、次世代モビリティなど地域公共交通を補完する二次交通充実により、環境面だけでなく経営面の視点も含めた持続可能な地域公共交通の実現を目指します。



- 福岡県全体と比較すると、自家用車の利用割合が13.4%高く、自家用車への依存割合が高い
- 2010年と比較しても4.8%高くなっており、さらに高くなる傾向がある
- 自家用車と公共交通を上手に使って共存する必要がある



- 九州旅客鉄道の鹿児島線が東西に運行
- 西日本鉄道のバスは国道3号と旧国道3号に広域路線があり、南北に市内の路線が設定
- 幹線を補うように、ふれあいバスやコミュニティバスの路線を設定
- 日の里地区でA I オンデマンドバス「のるーと」を運行

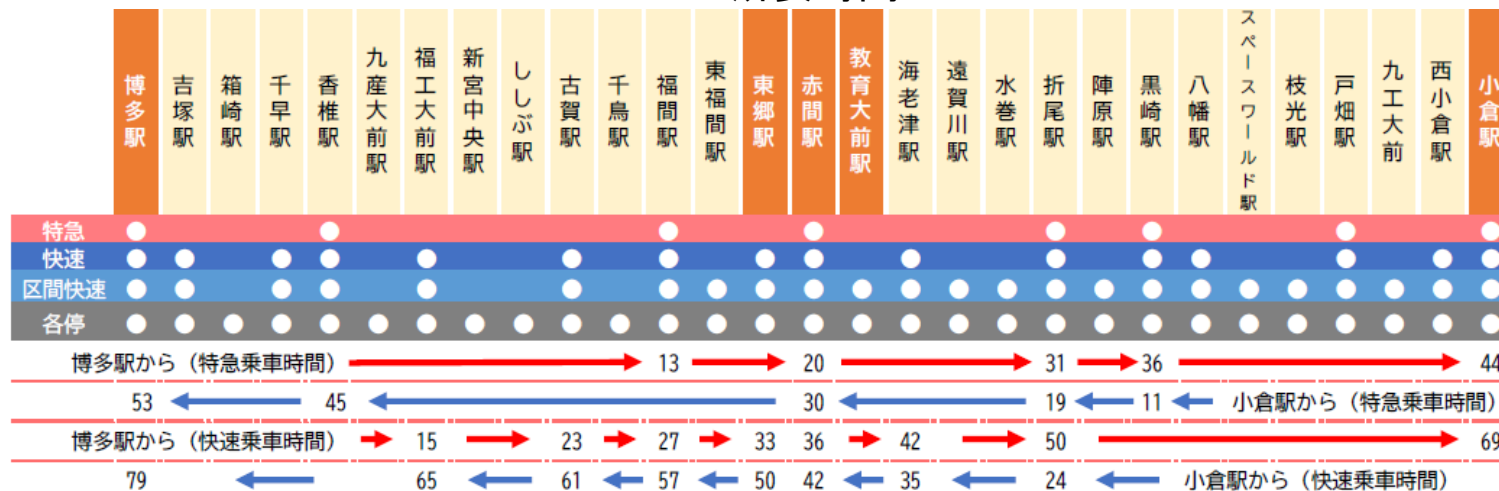


- ① **J R 鹿児島線**
東郷駅、赤間駅、教育大前駅
 - ② **路線バス**
福岡～赤間線、森林都市線、津屋崎・鐘崎線
 - ③ **ふれあいバス**
3系統
 - ④ **コミュニティバス**
8地区（6台で運行）
 - ⑤ タクシー
事業者4社
 - ⑥ 航路
大島渡船、地島渡船
 - ⑦ **A I オンデマンドバス**
日の里地区
-
- 葉の交通
コミュニティバス
タクシー・デマンド交通
- 枝の交通
幹線バス・離島航路
- 幹の交通
都市間交通
鉄道・広域バス



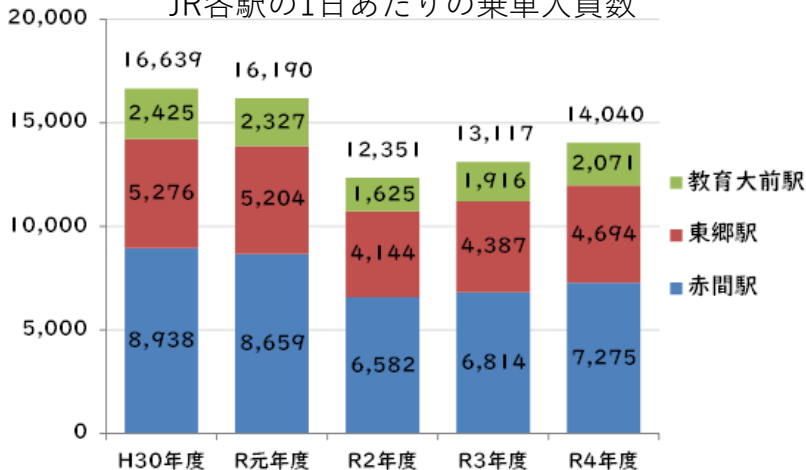
- 赤間駅から博多駅まで20分、小倉駅まで24分と通勤圏内
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けJR 3 駅の利用者数は減少
- 運行本数が令和元年度と比べて25%減、快速は69%が区間快速に変更か減、普通は36%減

所要時間



出典：九州旅客鉄道株式会社

JR各駅の1日あたりの乗車人員数



赤間駅の運行本数

【博多方面・平日】

	早朝 (5~8時台)			日中 (9~16時台)				夕 (17~19時台)			夜 (20~21時台)			深夜 (22~24時台)			計		
	H28	R4	R5	H28	R4	R5	H28	R4	R5	H28	R4	R5	H28	R4	R5	H28	R4	R5	
特急	7	7	7	6	5	8	3	3	4	2	3	3	4	3	3	22	21	25	
快速	6	5	5	17	1	1	6	3	3	3	2	2	3	0	0	35	11	11	
区間快速※	0	1	1	7	14	14	3	5	5	2	1	1	0	1	1	12	22	22	
普通	16	13	13	17	10	10	8	1	1	5	5	5	7	5	5	53	34	34	
計	29	26	26	47	30	33	20	12	13	12	11	11	14	9	9	122	88	92	

※平成28年は準快速

【小倉方面・平日】

	早朝 (5~8時台)			日中 (9~16時台)				夕 (17~19時台)			夜 (20~21時台)			深夜 (22~24時台)			計		
	H28	R4	R5	H28	R4	R5	H28	R4	R5	H28	R4	R5	H28	R4	R5	H28	R4	R5	
特急	3	3	4	4	4	8	5	5	7	6	6	6	7	4	4	25	22	29	
快速	3	2	2	18	2	2	6	3	3	4	2	2	3	2	2	34	11	11	
普通	17	15	15	24	25	25	11	9	9	6	6	6	7	5	5	65	60	60	
計	23	20	21	46	31	35	22	17	19	16	14	14	17	11	11	124	93	100	

- 路線バスの利用者は減少傾向、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて約60%減
- 直方～鞍手～宗像線（西鉄バス）が廃止
- 市の財源は厳しく、路線バスへの赤字補填が困難な状況

【令和4年度】

津屋崎・鐘崎線

（年間利用者数）約41,500人

（コスト）約50円/人

泉ヶ丘線

（年間利用者数）約1,600人

（コスト）約400円/人

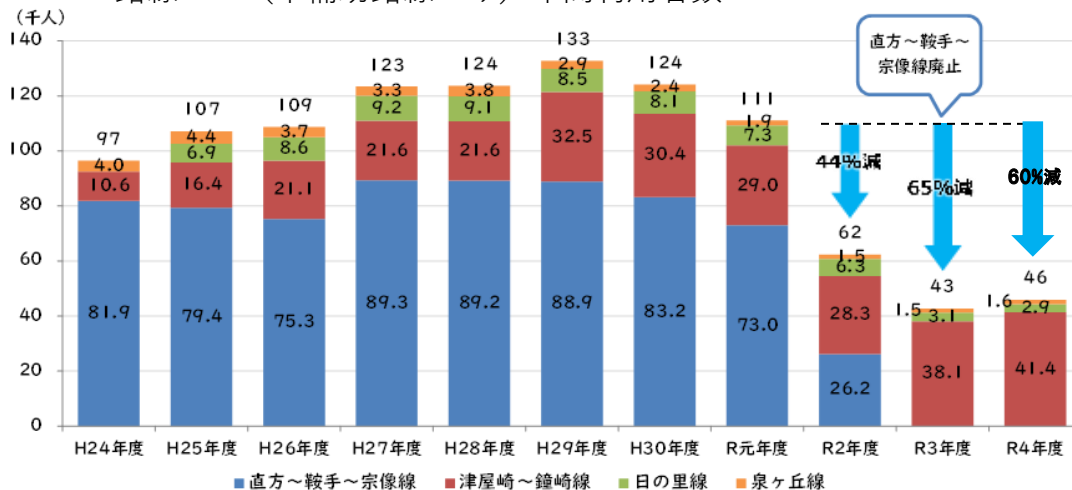
日の里線

（年間利用者数）約2,900人

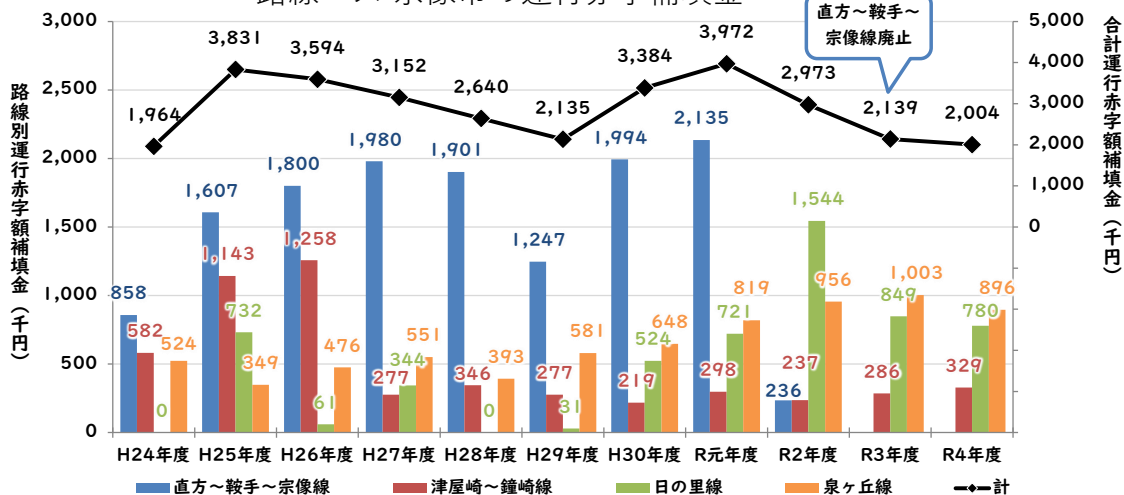
（コスト）約130円/人



路線バス（市補助路線のみ）年間利用者数



路線バス 宗像市の運行赤字補填金



合計運行赤字額補填金（千円）



- ふれあいバスの利用者は年間約11万人で推移していたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、約27%減。約87%までしか戻っていない。
- コミュニティバスの利用者は令和元年度まで増加傾向で年間約7万人。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、約23%減。約85%までしか戻っていない。

■ ふれあいバス（3路線運行）

【令和4年度】

（利用者数）約97,000人
 （年間経費）約4,500万円
 （年間収入）約1,000万円
 （コスト）約360円/人

■ コミュニティバス（8地区6台運行）

【令和4年度】

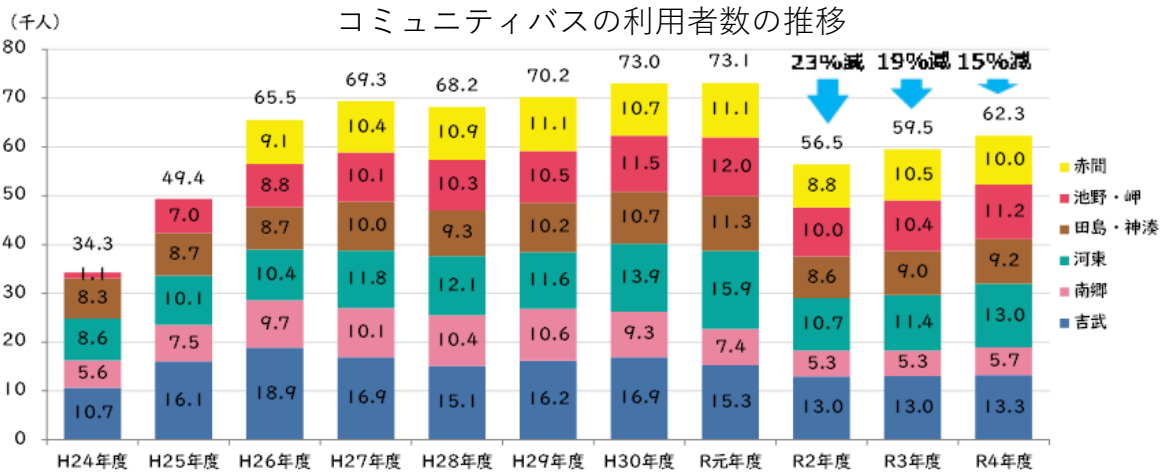
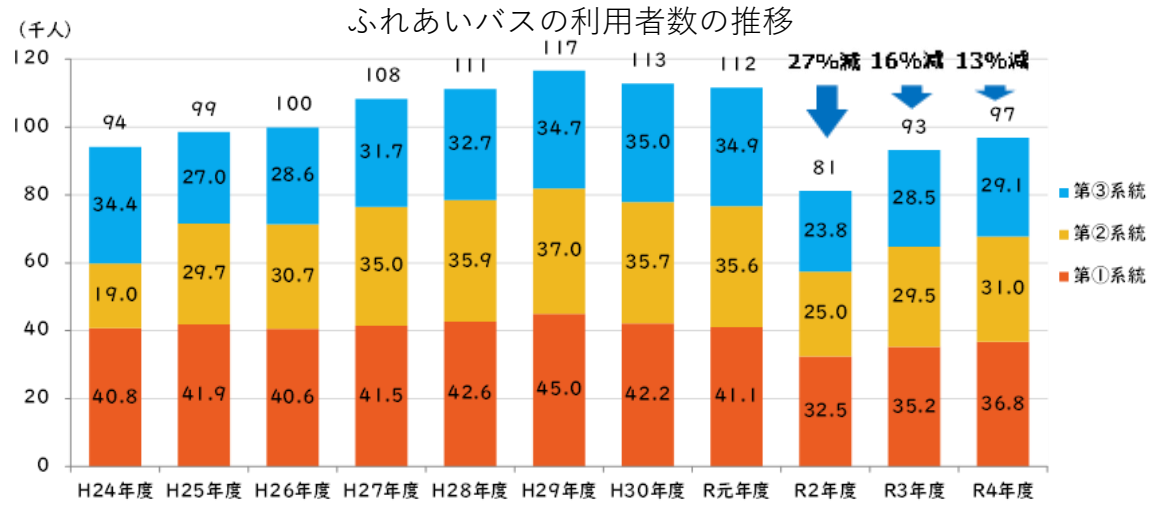
（利用者数）約62,300人
 （年間経費）約5,200万円
 （年間収入）約600万円
 （コスト）約740円/人



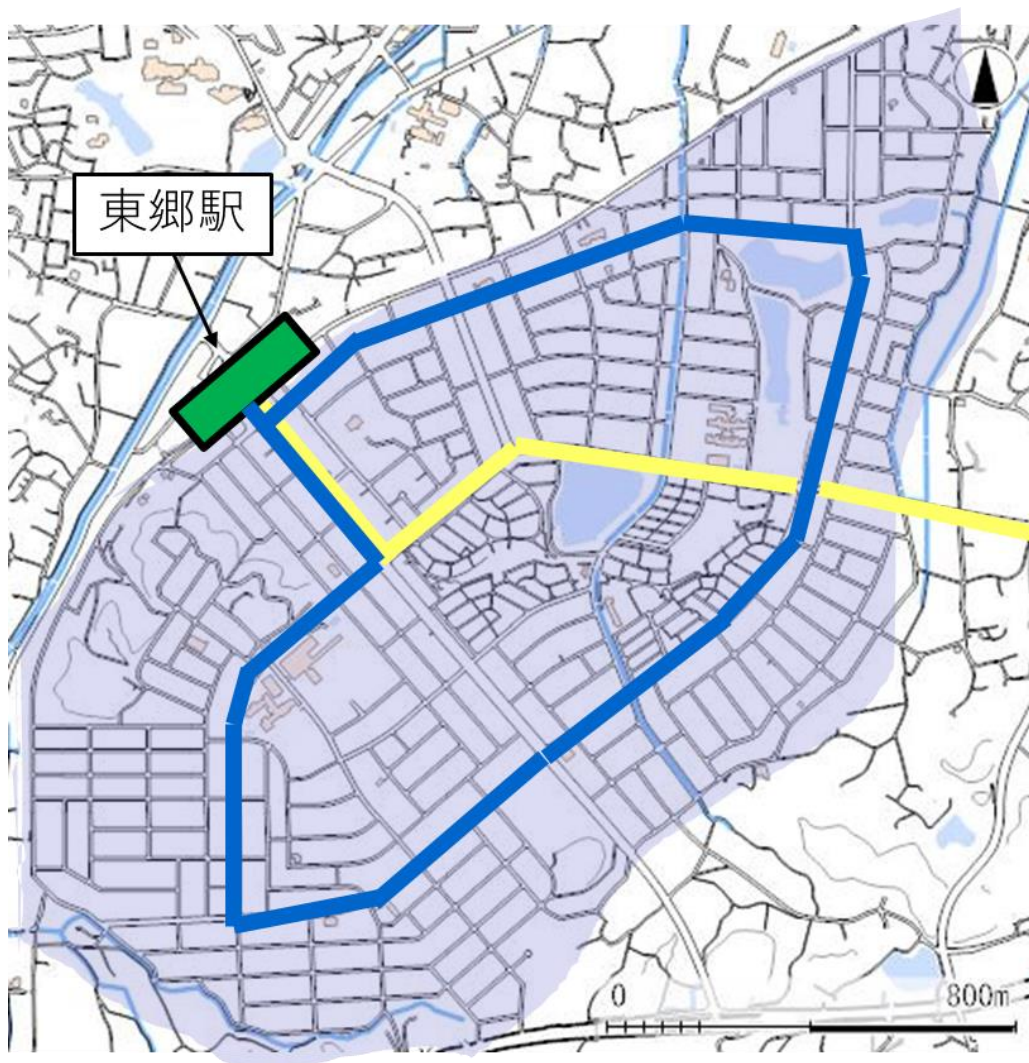
図 ふれあいバス



図 コミュニティバス



【路線バス（日の里線）の概要】



○運行台数：1台

○便数

循環線：右廻り14便

左廻り14便（青）

宗像ユリックス線：9便（黄）

○乗車人数：約130人/日（平日）

路線バスの廃止

代替交通の検討

団地再生の取組み

新技術を活用した公共交通

令和2年2月上旬

口頭で廃止する旨の説明

令和2年2月下旬

代替交通について協議開始
(地域コミュニティ運営協議会)

令和2年3月下旬

正式な廃止申出
「のるーと」導入で地域と合意

令和2年5月

地域へのチラシ配布
路線バスの廃止、「のるーと」の導入説明

令和2年7月

導入決定
(地域公共交通会議で承認)
住民説明会
(7回、108人)

令和2年8月

「持続可能な公共交通体系の構築に向けた
研究に関する協定」締結

令和2年11月

実証運行計画決定
(地域公共交通会議で承認)

令和3年2月上旬

住民説明会
(運行計画・予約方法 5回、108人)

令和3年2月上旬

住民試乗会
(利用説明・体験 1回、32人)

令和3年2月下旬

運行開始記念式典
(関係事業者・地元小学生 60人程度)
(テレビ局2社、新聞社2社)



(千円)

項目	のりーと	備考
イニシャルコスト	運行システム開発	6,710 ・R2実績
	車両・車載機	10,000 ・ハイエース(10人乗り)2台と車載器の購入の概算額
	事前準備	1,672 ・周知対応、乗降場所設置工事等の実績
	計	18,382

運行態様	区域運行(道路運送法施行規則第3条の3)			
運行区域	日の里地区、レガネット東郷店(田熊4丁目)、宗像医師会病院(田熊5丁目)			
運行事業者	宗像西鉄タクシー株式会社、新星交通有限会社			
実証期間	令和3年3月～令和5年3月			
運行時間	平日・・・6:00～21:00(2台運行)、土日祝日・・・6:00～18:00(1台運行)			
利用種別	日の里地区内及びレガネット東郷店、宗像医師会病院			
運行方法	予約のあるミーティングポイント間を効率的に運行			
運行経路	予約に基づきAIシステムが自動生成した経路を運行			
乗降場所	地区内63カ所、地区外2カ所			
配車方法	事前予約(7日前から)、リアルタイム予約			
決済方法	現金、ICカード、クレジットカード、1日乗車券、定期券			
運賃		日の里地区内	日の里地区内～ レガネット東郷店	日の里地区内～ 医師会病院
	大人	200円	300円	400円
	小児(12歳未満)	100円	150円	200円
	幼児(未就学児)	100円	150円	200円
	乳児(1歳未満)		無料	
	障がい者	100円	150円	200円



乗降場所の目印
(路面シートまたはサインタワー)



【導入前】

利用者の反応

- **予約が必要**であることへの抵抗感
- 「AI活用型オンデマンドバス」という聞きなれない言葉を**受け入れてもらえない**



対応

- 「のるーと」の**特徴と利便性**を説明
- コミュニティ役員とアイランドシティ視察

周知活動

- 導入のお知らせの全戸配布
- **住民説明会の開催**
- **乗車会**
- 記念式典
- リーフレットの全戸配布
- 市情報誌、HP掲載



【導入後】

利用者の反応

- 導入前の周知活動の効果もあり、**否定的な意見はない**
- **アプリでの予約方法や乗車方法に関する問合せ**が市・コミュニティセンターに殺到



対応

- **定期的な相談会の実施**に加え、よくある質問には広報誌やコミセン便りで回答
- システムや仕様など運行に関する課題は、その都度**運行事業者やシステム会社と調整**

周知活動

- **相談会・出前説明会の実施**
- 市情報誌、HP掲載、コミセン便り
- アプリ内お知らせ、メルマガ配信
- 東郷駅デジタルサイネージ掲載
- 「ひのさと48」オープニングイベントでPR
- 市役所スマホお助け窓口での説明

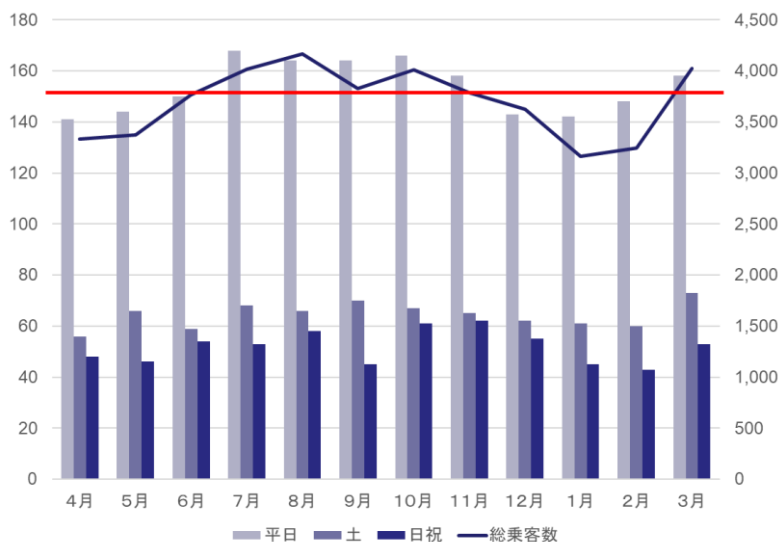
月別利用状況利用者数の推移 (R4年度)

		令和4年										令和5年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
日あたり利用者数(人)	平日	141	144	150	168	164	164	166	158	143	142	148	158	
	土曜	56	66	59	68	66	70	67	65	62	61	60	73	
	日・祝日	48	46	54	53	58	45	61	62	55	45	43	53	
累計登録者数(人)		2,572	2,647	2,767	2,926	3,049	3,165	3,255	3,381	3,432	3,503	3,583	3,721	
ユニーク利用者数(人)	全体	521	516	573	614	624	608	606	611	595	548	540	662	
	週2以上	85	80	93	108	107	101	105	98	96	77	86	95	
アプリでの予約率		79.9%	81.3%	78.5%	81.5%	83.0%	83.1%	81.7%	81.6%	82.0%	83.1%	83.0%	82.5%	
電話での予約率		20.1%	18.7%	21.5%	18.5%	17.0%	16.9%	18.3%	18.4%	18.0%	16.9%	17.0%	17.5%	

【令和4年度】
 (利用者数) 約44,000人
 (年間経費) 約4,000万円
 (年間収入) 約800万円
 (赤字補填) 約740円/人

総乗客数(人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R4年度	3,331	3,370	3,763	4,014	4,165	3,830	4,009	3,787	3,624	3,164	3,242	4,027	44,326
R3年度	2,224	2,130	2,898	3,150	2,809	2,793	3,450	3,352	3,462	2,791	2,685	3,448	35,192

利用者数の推移 (R4年度)



予約方法の推移 (R3年度～R4年度)



令和3年3月 → 令和5年3月
 アプリ61%、電話39% → **アプリ83%、電話17%**

○認知度が向上し、利用の増加・定着が図られている
 ○日平均が150名を超える月も多く、月の利用者も3,500人を超えた月も多いため、利用が安定していることが分かる

○事前予約数が多く、「のるーと」の利用を前提とした行動が起こり、生活の足として定着している

乗降場所マップ



東郷駅日の里口

日用品店舗

日用品店舗

銀行

宗像ユリックス

- 乗降場所：65ヶ所
- 久 原 ①：宗像ユリックス
 - 田 新4①：レガネット東郷店
 - 田 新5①：宗像西館会病院
 - 日の里1①：東郷駅日の里口
 - 日の里1②：日の里一丁目(東向き)
 - 日の里1③：日の里第1号公園南
 - 日の里1④：公団アパート前(東向き)
 - 日の里1⑤：日の里地区コミュニティセンター
 - 日の里1⑥：サニー日の里駅前
 - 日の里1⑦：西日本銀行日の里支店前
 - 日の里1⑧：日の里一丁目(西向き)
 - 日の里2①：農林内科消化器科クリニック(東向き)
 - 日の里2②：農林内科消化器科クリニック(西向き)
 - 日の里2③：ヴィア日の里前
 - 日の里2④：日の里二丁目17番地西
 - 日の里2⑤：ドリームリマ前
 - 日の里3①：日の里第3号公園北
 - 日の里3②：日の里三丁目第1番地南
 - 日の里3③：日の里三丁目(東向き)
 - 日の里4①：日の里三丁目西向き
 - 日の里4②：日の里西丁出入口(西向き)
 - 日の里4③：日の里西丁出入口(東向き)
 - 日の里4④：日の里西丁出入口(南向き)
 - 日の里4⑤：西丁目公園前(東向き)
 - 日の里4⑥：日の里西丁目23番地東
 - 日の里5①：公団アパート前(西向き)
 - 日の里5②：西丁目公園前(西向き)
 - 日の里5③：第二公園住宅前(北向き)
 - 日の里5④：日の里五丁目3番地南
 - 日の里5⑤：日の里第5号公園前
 - 日の里5⑥：高橋整形外科病院前
 - 日の里5⑦：第一公園住宅前(南向き)
 - 日の里5⑧：ローソン宗像日の里五丁目店前(南向き)

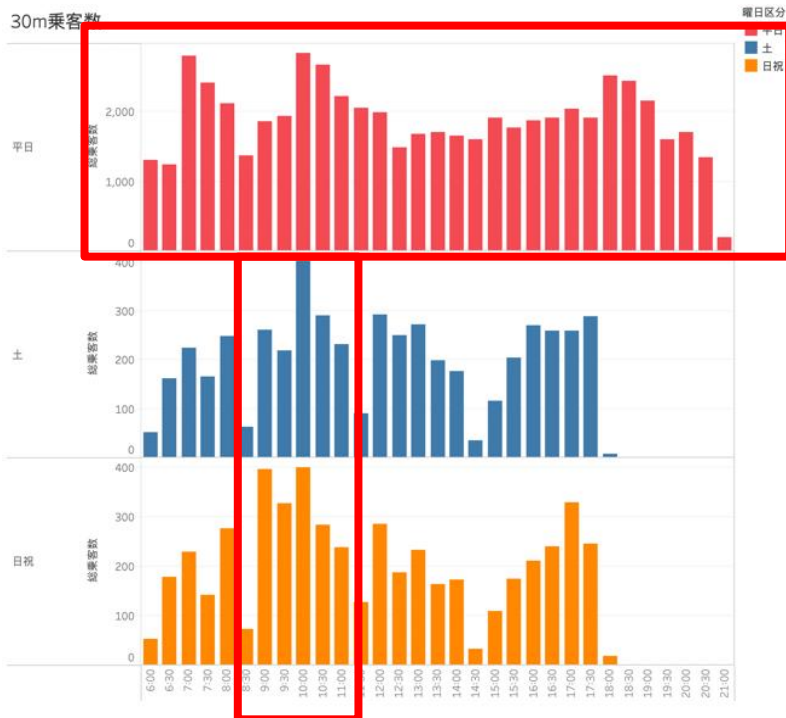
- 日の里6①：第二公園住宅前(南向き)
- 日の里6②：コンボスデファA棟前
- 日の里6③：日の里六丁目14番地西
- 日の里6④：日の里六丁目第1番地西
- 日の里6⑤：日の里六丁目第1番地東
- 日の里6⑥：日の里六丁目23番地西
- 日の里7①：日の里七丁目4番地北
- 日の里7②：日の里八丁目第1番地南
- 日の里7③：日の里七丁目第1番地南
- 日の里7④：日の里七丁目第1番地北
- 日の里7⑤：日の里第9号公園南
- 日の里7⑥：日の里七丁目21番地東
- 日の里7⑦：日の里七丁目29番地南
- 日の里7⑧：日の里七丁目35番地西
- 日の里7⑨：日の里7号公園南
- 日の里8①：第一公園住宅前(北向き)
- 日の里8②：ローソン宗像日の里五丁目店前(北向き)
- 日の里8③：日の里第6号公園南
- 日の里8④：日の里八丁目15番地東
- 日の里8⑤：日の里八丁目第1番地北
- 日の里8⑥：日の里七丁目(東向き)
- 日の里8⑦：西小学校入口(南向き)
- 日の里8⑧：日の里西小学校前(南向き)
- 日の里9①：日の里九丁目1番地東
- 日の里9②：日の里九丁目27番地西
- 日の里9③：日の里第10号公園前
- 日の里9④：日の里西小学校前(北向き)
- 日の里9⑤：日の里九丁目21番地南
- 日の里9⑥：日の里九丁目35番地南
- 日の里9⑦：西小学校入口(北向き)
- 日の里9⑧：日の里九丁目35番地南

路面シートがサインタワーが目印!

サインタワー
路面シート

東郷駅日の里口

サインタワー：レガネット東郷店、宗像西館会病院、日の里地区コミュニティセンター
路面シート：上記の場所以外



曜日別・時間帯別の乗客数

乗車場所		降車場所			
1	東郷駅日の里口	29,011	1	東郷駅日の里口	26,616
2	レガネット東郷店	4,457	2	宗像ユリックス	4,408
3	サニー日の里店前	3,877	3	日の里8丁目	3,916
4	宗像ユリックス	3,237	4	レガネット東郷店	3,143
5	日の里4丁目	2,509	5	西日本シティ銀行日の里支店前	2,521
6	第2公団住宅前	2,402	6	高橋整形外科医院前	2,322
7	コンポステラA棟前A	2,120	7	日の里4丁目	2,237
8	日の里8丁目	1,720	8	4丁目公園前	1,874
9	日の里7丁目	1,598	9	日の里7丁目21番地東B	1,726
10	日の里6丁目	1,391	10	日の里西保育園前A	1,672
11	西日本シティ銀行日の里支店前	1,341	11	第2公団住宅前	1,669
12	島村内科消化器科クリニック	1,207	12	日の里7丁目	1,580
13	4丁目公園前	1,206	13	日の里第3号公園北B	1,461
14	日の里5丁目3番地南B	1,145	14	日の里第9号公園南B	1,395
15	日の里第3号公園北A	1,105	15	日の里7丁目9番地北A	1,257
16	高橋整形外科医院前	947	16	日の里西小学校前	1,155
17	日の里4丁目入口	946	17	コンポステラA棟前A	1,030
18	日の里第9号公園南B	868	18	日の里第8号公園南B	967
19	日の里3丁目	845	19	第1公団住宅前	893
20	日の里第3号公園北B	798	20	サニー日の里店前	883

乗車及び降車場所の乗客数（上位順）

- ▼平日利用が多くを占め、土日祝日は9:00～10:00の時間帯の利用者が多い
- ▼平日は「通勤・通学」時間に限らず、全時間帯で利用されている
- ▼東郷駅やユリックスなどの公共・公益施設、日用品店舗、銀行などの生活利便施設の乗降が多い
 - ⇒「通勤・通学」と「日常生活」双方で活用されており、様々な世代の利便性向上に寄与している

検証結果

- ▼生活の質の向上・・・待ち時間の減少など利便性が向上
- ▼利用実態・・・利用者数が伸び続け、通勤・通学・日常生活に欠かせない手段として定着
- ▼まちづくり・・・最新技術の活用やアプリ普及などデジタル化を推進
日の里地区の団地再生事業の推進に寄与
- ▼コスト・・・利用者の拡大による費用対効果に期待



今後の展望

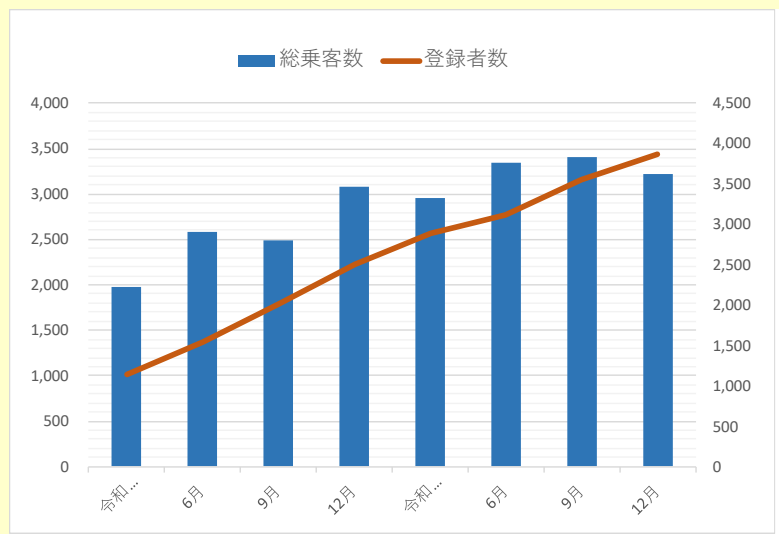
▼変更点

ミーティングポイントの増設	「メイトムむなかた」に新たに停車
自動音声受付の導入	予約アプリなしでも、24時間365日の予約が可能
相談窓口・電話受付センターの一本化	CoCokaraひのさとで相談や予約が可能
バス停留所施設の設置	メイン道路には標柱識のバス停を設置

- ▼乗合率を高めるなど、さらなる利用者の拡大による運賃収入の増加
- ▼他地区に導入し、運行経費（システム費用）の分散の検討
- ▼「のるーと」への転換を検討する際に考慮すべき視点
 - ①運行エリアの面積が5 km²程度
 - ②運行エリア内の人口が1～2万人程度
 - ③上記の地区に隣接するエリア
 - ④路線バスとの共存に影響が無いこと
 - ⑤タクシーとの共存に影響がないこと

利用状況

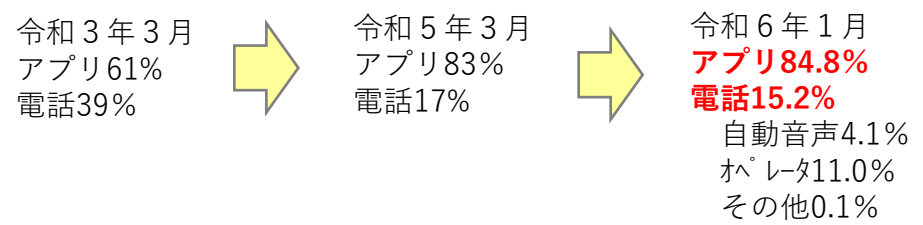
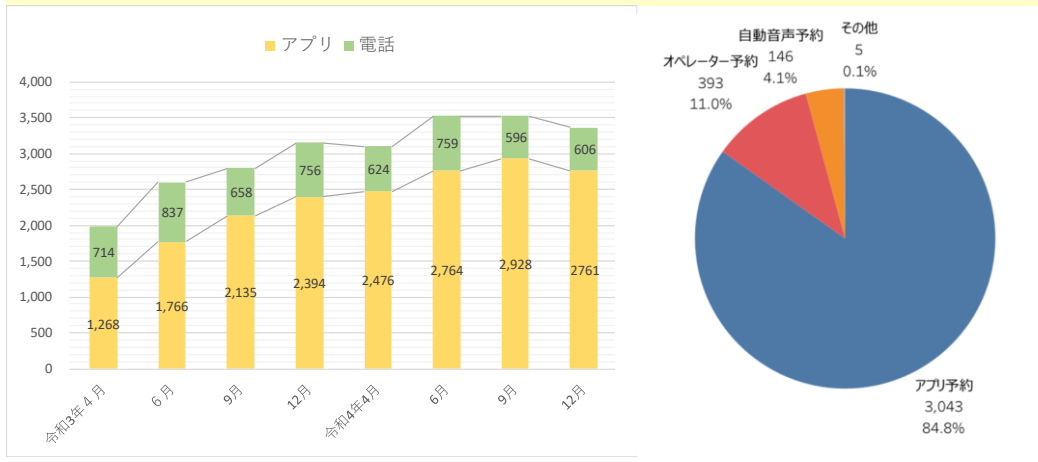
1 総乗客数と登録者数



令和5年3月		1日当りの利用者数	
総乗客数	4,027人	平日平均	158人
登録者数	3,721人	休日平均	73人

利用者数、登録者数とも順調に増加

2 予約方法の推移



残すから生かすへ

むなかた地域公共交通シンポジウム(田中輝美先生)



【のるーと関連アプリ】



アプリの登録・利用方法は
YouTube「のるーとチャンネル」▶

のるーとチャンネル

検索



ご清聴ありがとうございました。



宗像市のふるさと納税も
ぜひよろしくお願いします♪



ブランド「あまおう」



ブランド「釣りあじ玄ちゃん」



鐘崎天然とらふく

宗像市